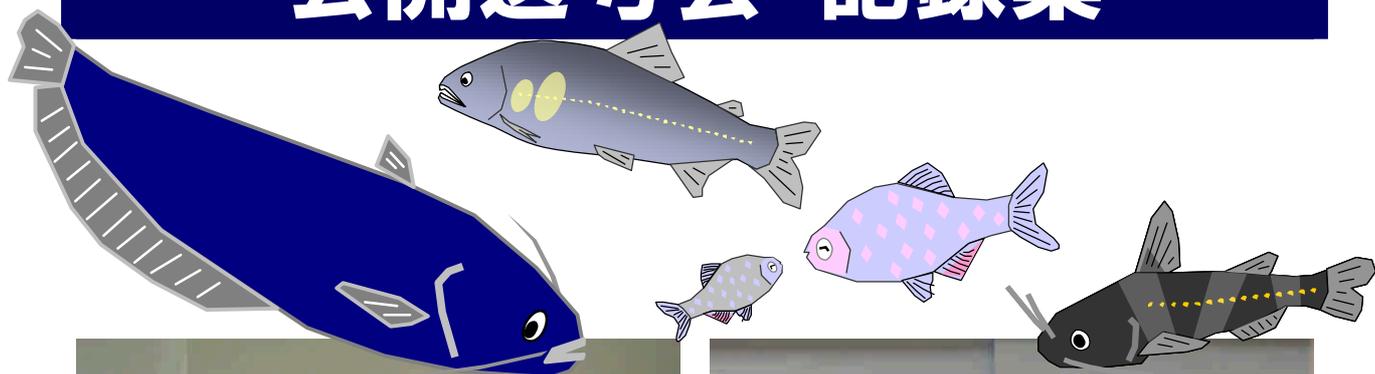




第5回 淡海の川づくりフォーラム

平成24年(2012年)1月28日(土)開催

公開選考会 記録集



淡海の川づくりフォーラム実行委員会

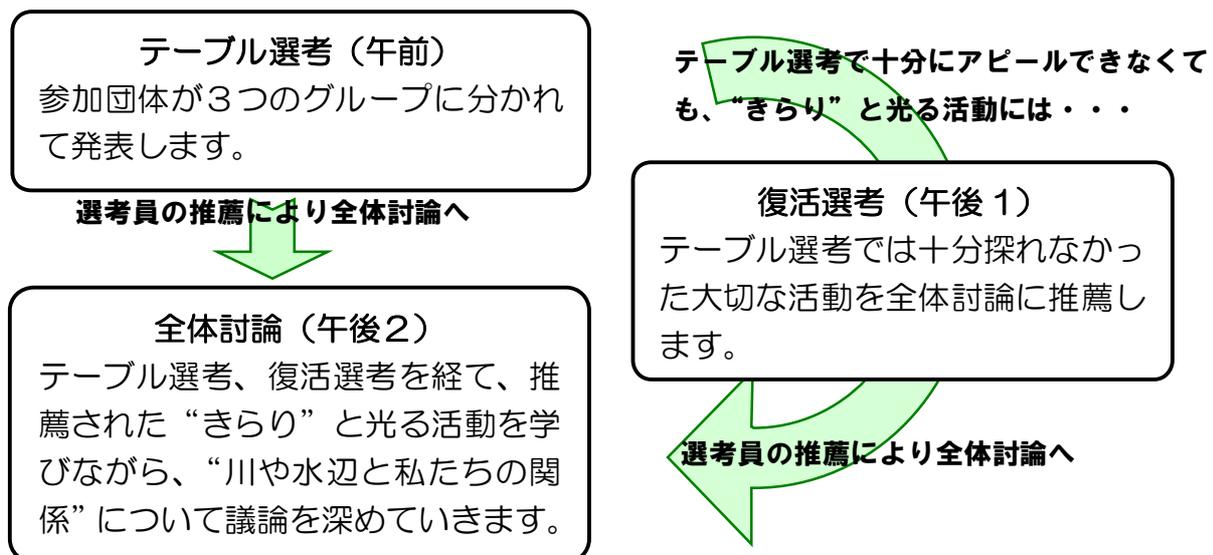
1. 淡海の川づくりフォーラムとは

第5回淡海の川づくりフォーラムでは、“川や水辺と共生する暮らし”、“川や水辺と私たちのいい関係”について、川や水辺にまつわる活動を実践されている皆さんとともに、公開選考方式のワークショップを通じて、それぞれの交流の中で議論を深め、探ります。

★ 日時 2012年1月28日（土） 9:30～17:00

★ 場所 コラボしが21 3階各会議室

★ 内容 テーブル選考、復活選考、全体討論



2. 公開選考会の開催概要

プログラム

● 1月28日（土）会場：コラボしが21

9：30～10：00 開会、ガイダンス

大会議室で開会宣言を行い、その後1日の流れを説明します。

10：00～11：30 テーブル選考発表

選考員が中心となって議論を深め、全体討論に進む“きらり”と光る活動をテーブルごとに2団体、選びます。

テーブル選考で推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。

（お昼休憩）

12：45～13：15 復活選考

時間内で自由に選考員に活動内容をアピールします。

復活選考から全体討論に進めるのは3団体程度です。

13：15～13：30 スペシャルセッション ー第4回いい川、いい川づくりWSから

他府県の先進的な活動事例を紹介します。

1) 兵庫県県土整備部土木局総合治水課（武庫川（兵庫県））

13：30～16：15 全体討論

発表時間5分で選考員に活動内容をアピールします。

全団体発表後、選考員・コメンテーターを中心に、明日からの活動の参考になるような、今年いちばん“キラリと光る活動について、参加者全員でさらに議論を深めていきます。

16：15～

結果発表・表彰

全体討論の結果を発表します。

グランプリ・準グランプリ等の表彰式が行われます。

河港協会賞は全参加団体の中から選ばれます。

選考結果

グランプリ

- 白鳥川の景観を良くする会

★★★「STG48 知恵と分業で白鳥川が美しいで賞」

- 巨木と水源の郷をまもる会

★★★「水源を守るトチノキは“バッチ”と“バチ”でこれからも守りま賞」



準グランプリ

- 「奥村堤」の会

★★ 「愛知川のおやじの熱い取り組みが地域の経験を次世代に伝えるで賞」



河港協会賞

- 勝部自治会
- 西野郷土研究会
- NPO法人 瀬田川リバプレン隊



3) 応募団体一覧

(敬称略)

	団体・グループ名	代表者
テーブルA		
A-1	「奥村堤」の会	北川富蔵
A-2	環境フォーラム湖東	仁連孝昭
A-3	巨木と水源の郷をまもる会	青木繁
A-4	日本森林再生化学機構(株)	田中清一
A-5	NPO 法人比良の里人	寺川庄蔵
テーブルB		
B-1	水害履歴調査員	小泉知子
B-2	琵琶湖河川レンジャー有志	平山奈央子
B-3	勝部自治会	小島良和
B-4	山内エコクラブ	竜王真紀
B-5	西野郷土研究会	山田義孝
テーブルC		
C-1	びわ湖自然環境ネットワーク	寺川庄蔵
C-2	琵琶湖総合保全ワーキンググループ有志	中村彰吾
C-3	白鳥川の景観を良くする会	吉田栄治
C-4	滋賀県流域政策局有志	石山基
C-5	NPO法人瀬田川リバプレ隊	富岡親憲
C-6	NPO法人蒲生野考現倶楽部	森田英二
計	【参加 16 団体】 / 発表 16 団体	

選考結果一覧

テーブルA

	川や水辺の名称	団体・グループ名	テーブル選考	復活選考	結果
A-1	愛知川	「奥村堤」の会	推薦		準グランプリ
A-2	芹川、犬上川、宇曾川ほか	環境フォーラム湖東		復活	
A-3	安曇川支流の北川および針畑川の源流	巨木と水源の郷をまもる会	推薦		グランプリ
A-4		日本森林再生化学機構（株）			
A-5	近江舞子内湖	NPO 法人比良の里人			

テーブルB

	川や水辺の名称	団体・グループ名	テーブル選考	復活選考	結果
B-1	滋賀県全域	水害履歴調査員			
B-2	琵琶湖とその周辺河川	琵琶湖河川レンジャー有志	推薦		
B-3	今宿川、中水川	勝部自治会	推薦		河港協会賞
B-4	野洲川	山内エコクラブ		復活	
B-5	余呉川	西野郷土研究会		復活	河港協会賞

テーブルC

	川や水辺の名称	団体・グループ名	テーブル選考	復活選考	結果
C-1	琵琶湖岸	びわ湖自然環境ネットワーク		復活	
C-2	琵琶湖全域	琵琶湖総合保全ワーキンググループ 有志			
C-3	白鳥川、藤間川	白鳥川の景観を良くする会	推薦		グランプリ
C-4	滋賀県全域	滋賀県流域政策局有志			
C-5	高橋川、瀬田川、建部大社周辺の河川および瀬田川	NPO法人瀬田川リバプレ隊			河港協会賞
C-6	佐久良川、日野川本流、琵琶湖、淀川流域の河川など	NPO法人蒲生野考現倶楽部	推薦		

4) 大会ダイジェスト

1月30日(日) 会場：コラボしが

● 開 会

淡海の川づくりフォーラムは今回で5回目となります。第4回からは、県民のみなさんとともに企画運営を行うことを目的に、淡海の川づくりフォーラム実行委員会を設置し、実行委員会主催でフォーラムを開催させていただいています。

淡海の川づくりフォーラム実行委員会の北井香実行委員長の開会宣言で、フォーラムが始まりました。ドキドキ、わくわくの一日のはじまりです。

● テーブル選考 テーブル A~C

滋賀県内・外から応募によって集まった 16 団体が、それぞれの発表内容から大まかなテーマごとに 3 グループ（1 グループ 5~6 団体）に分かれてテーブル選考が行われました。

発表時間は 1 団体あたり 5 分で、質疑応答、テーブル・コーディネーターの進行により、約 1 時間 30 分かけて、それぞれの参加団体から工夫を凝らしたたいへん熱い報告がなされました。発表後の選考員と参加者とのディスカッションを通じ、選考を進めた結果、各グループから 2 団体ずつ、計 6 団体が全体討論に推薦されました。

● 復活選考

午前中のテーブル選考で惜しくも全体討論への推薦を逃した団体が、もう一度全体討論への出場を目指して復活選考に臨みました。メイン会場に一同が集まり、自作のパネルを用いてアピールを繰り広げる様子は圧巻です！約 1 時間に渡り、選考委員も選考に熱が入り、発表者と熱心に“いい川、いい地域づくり”について議論されていました。

● スペシャル・セッション

全体討論に入る前に、特別ゲストによる活動報告です。

平成 23 年 9 月 24 日、25 日に東京で行われた、第 4 回いい川、いい川づくりワークショップで受賞された、**兵庫県県土整備部土木局総合治水課さん**をお招きし、県外の先進事例として、武庫川における多自然川づくりの取組を皆さんの前で披露いただきました。

● 全体討論

午後は、参加者全員がメイン会場にて、全体討論に臨みました。テーブル選考と復活選考を経て、全体討論には 10 団体が出場しました。さすが、全体討論への推薦を得た団体の報告はどれも内容の濃いものばかり！選考委員のみなさんも選考に頭を悩ませていました。

各団体の発表後は、会場全体でアピール内容について議論を行いました。活発な意見交換により、参加者同士の交流も深まり、ところどころで連絡先の交換なども行われていました。

● 表彰式

表彰式では、グランプリ・準グランプリに加え、全体討論の発表団体以外からも“きらり”と光る活動を報告した参加団体に対して、河港協会賞も賞されました。

福廣総合コーディネーターからの全体講評の後、コメンテーターである嘉田由紀子知事からの挨拶で、熱い一日が無事に閉会となりました。

開会あいさつ

淡海の川づくりフォーラム実行委員会 北井 香 委員長

みなさん、おはようございます。貴重な週末の1日に、このようにお集まりいただきまして、ありがとうございます。この会は、今回で第5回です。昨年も同じような時期に開催いたしまして、豪雪で大変だったんですけど、今日も大変厳しい雪の中集っていただいています。平成23年3月11日大きな震災、もう逃げるしかないという災害があり、たくさんの方が津波で命を落とされました。皆さんの日頃の、色んな川をきれいにする活動だったり、子どもたちと一緒に水辺に近づく活動をされている中で、その活動の意義というものを改めて見直されたような1年だったんじゃないかなと思います。この会のそもそもの所というのを、少し紹介させていただきたいと思います。



2008年に流域治水検討委員会の住民会議が行われました。1年間をかけて、滋賀県の流域治水について議論をしまして、その中から「水害から命を守る地域づくり宣言」という提言をまとめて、知事に報告をいたしました。命を守るという水害の視点から立って、実はそこがこの会の最初の地点だということで、ちょっとだけ意識をしてもらえたらと思います。

なぜ、そこがこのフォーラムに繋がっているのかといいますと、やっぱり日常の川に触れるということで日頃のちょっとした川の異常だとか、危険な時とか周りが大雨の時に川はどうなってるんやろうとか、意識がいくようになるんじゃないかと、身近な川を作っていこうということと、それを繋いでいく地域の活動だとか市民団体さんとか、任意団体さん、どんな方でも色んな活動に繋がっていくことが大事だろうということ。その活動がどんどん元気をなくしていってしまわないようにする仕組みと、各地の貴重な活動を県内にも繋げていこうとすることが必要だろうと、色んなネットワークを作っていこう、そういう機会を作っていこうということとか、そういう事が色々繋がって、この川づくりフォーラムというものになってきています。

この会は、そういう意味でもいろんな活動のヒントの共有や、それぞれの活動のいい所を見つけて、「ここすごいね」ってやっている方に伝えて元気を出してもらおう、次の活動につなげていこうというのが目的の会です。ですので、参加いただいている団体の方も、発表されない方も、発表を聞きにこられた方も積極的にこの輪の中におられる方と情報交換をしていただいて、傍観して聞いているだけというよりも皆が一緒に参加して、選考委員ももちろんですけど、一般の方も含めて全体でそれぞれの活動のいい所を共有して、次の活動のエネルギーに換えていこうという会になっていけたらいいなと思います。

9時半に開会して4時半までと丸1日かかるんですが、みんな元気をもらって帰られる会になりますように、みなさんのご参加とご協力をお願いします。

では、これから1日、よろしくお願いします。

スペシャル・セッション

兵庫県県土整備部土木局総合治水課（兵庫県（武庫川）） 小島さん

みなさん、こんにちは。兵庫県庁の総合治水課から参りました小島(おじま)と言います。よろしくお願ひします。今、福廣コーディネーターから紹介がありましたように、昨年東京で開催されるいい川づくりワークショップに行かせてもらいまして、そこで武庫川の河川改修について報告させていただきました。



今日は、その武庫川の河川改修を少し紹介させ

ていただきたいと思います。これは武庫川の写真なんですが、武庫川の上流というのは、本来河川というのは上にいく程、勾配がきつくなっていくんですけど、武庫川はほとんど上流までいっても、ゆるい勾配になっています。他の川では、ゆるい勾配のところ、都市化によって失われた自然環境がいっぱいあるんですけども、武庫川につきましては上流もゆるい勾配だということで、貴重な自然がいっぱい残っております。例えば、ここに写真を載せているんですけども、オグラコウフネ、本来ため池に生息するような植物とか、全長1cmほどのドクナベブタムシといった水生昆虫とか、全国的にも貴重な動植物が生息・生育しております。

このような川で河川改修を進めていくのですが、河川改修はこういった貴重な自然環境に配慮しながら進めております。今日は、このパネルを用いまして武庫川の強いところは**兵庫県の川づくり**を紹介させていただきたいと思います。

ポイントは2つあります。

まず1つは、**お金をかけない**。もう1つが**時間をかけない**。この2つのポイントがございます。

まず1番のお金をかけない川づくりなんですが、兵庫県の河川管理者としましては、まず治水事業をさておき、環境の奉仕だけを行うわけにはいかないんです。環境に使える予算が非常に限られていますので、少しでも安く出来る工夫を行っています。

例えば、ここのパネルにあるんですが、植生再生とか寄せ石の設置。これがお金をかけない川づくりなんですが、在来種の表土の埋め戻しをいたしまして、植生再生を行っています。表土を埋め戻しての植生再生は、在来種の苗を植えるのに比べ、格段に安く在来種が復元します。寄せ石につきましても、護岸の前にパラパラと設置するだけで魚のすみかになります。

次に2番目の時間をかけない川づくりです。武庫川では、みお筋の保全と再生を行いました。ここで時間をかけないというのは、工事の時間ではないんです。環境が再生するまでの時間のことです。この工事をする時に、みお筋の再生とか保全とかは特に気にしなくても、多分100年経てば復元すると思うんです。ただ、川を掘った時、



みお筋を再生しやすいように筋道をちょっと掘っとい
てあげるんです。ちょっと掘っておきますと、すぐにみ
お筋は元通り復元しました。お金をかけずに川自身が改
修前の環境に少しでも早く戻れるような**川自身の回復
力を引き出す、川づくり**に努めたいと思っております。

兵庫県では、こうした多自然川づくりの知恵をまとめ
た事例集を作っております。本日事例集は持ってきてな
いんですが、写真を多く使いまして写真集的な構成にし
ております。HPで公開しておりますので総合治水課に
アクセスしていただきまして、一度ご覧いただけたらと
思っております。

最後にもう1つ、**兵庫県を自慢**して帰りたいと思いま
す。兵庫県では瀬戸内海から日本海まで貫通するという特徴を活かしまして、「**ふる
さと桜つつみ回廊**」というのを整備しております。**瀬戸内海から日本海までの河川沿
いを、住民の方と一緒に5万本の桜で繋ぎました**。今日紹介させていただきました武
庫川沿いも非常によい桜並木が連なっています。是非一度、満開の時期に兵庫県にお
越しいただきまして、この景色を見ていただければと思っております。どうもありが
とうございました。

事例集：<http://web.pref.hyogo.lg.jp/wd15/jireishuu.html>

桜つつみ回廊：http://web.pref.hyogo.lg.jp/wd15/wd15_000000005.html

テーブル選考結果発表

テーブルA (テーブル・コーディネーター 小丸和恵さん)

みなさまどうもお疲れさまです。テーブルAは**かなり白熱**しました。選考員だけで決められないなということでみなさんのお力も借りながら、涙を吞んで2つ選ばせていただきました。

ひとつめは「**「奥村堤」の会**」さんです。こちらは自治会有志の方で構成されている会で、**できるところから小さなことでも積み重ねていき、できないところは他と繋いでいきながら、自らがやっておられる活動**です。自治会長さんも来られていて、応援のフォローもしてくださいました。



それから、「**巨木と水源の郷を守る会**」さんです。こちらは最初の段階で皆さんの意見が一致しました。素晴らしい活動をされていて、**500年前のトチの巨木を見つけ出し、保全していこうという活動**をされています。いろんな課題を抱えながら始めていかれたところを高く評価されました。

他の団体のみなさんも本当に選びたかったんです。まず「**環境フォーラム湖東**」さんです。こちらは市民団体・学校関係・行政、そして企業が連携をしてどんどん仲間を**テーマの違う人たちが繋がっていくきっかけ作り**をされていて、すばらしいなと私も個人的に思っていました。

それから「**日本森林再生化学機構**」さんです。こちらは竹を何とかしたいということで**竹のビジネス**をされています。そういった資源をお金に結び付ける努力をされているところが新しいと思いました。中国の竹だったということがちょっと残念ということで、私も含めてみなさん揃って「**日本の竹は何とかなりませんか**」「**何かいいアイデアを**」という話になりました。

最後に「**NPO法人比良の里人**」さんです。こちらは寺川庄蔵さんのところでやっておられます。プラスチックではなく木で作った昔のたらい舟に子どもたちが乗って、体験学習をされたり観光名所されたりしてみなさんの注目を集めながら内湖の再生をしようという活動でした。「**楽しそうだから参加したい**」という声が会場から多く上がりました。「**それならたらい舟を新しく作ってもらわないといけませんね**」といった話になりました(笑)。こんなに楽しい集まりを作られているところが評価されていました。

以上、テーブルAからの報告です。

テーブルB (テーブル・コーディネーター 菊池玲奈さん)

みなさんお疲れさまでした。

本当にBグループも白熱した議論というか、みなさんこんなに素晴らしい活動をされているのに、何で2つ選ばないといけないのだろうという雰囲気最後まで議論が続きまして。決選投票に決選投票を重ねるような形で、会場の皆様のご意見もいただきながら、最終的にまず2団体を選考しましたのでご報告します。

1グループ目が「琵琶湖河川レンジャー有志」のみなさん。のちほど発表を聞いていただくとわかんと思うのですが、こんなに若くやわらかい女性がこんなにやわらかい言葉で河川を守ってらっしゃるのが非常に衝撃的でした。レンジャーというともっと川に対して肩肘を張ってみなさんを指導する立場かと思ったら、普通に住民の方が



困っていること、それから行政としてどういったことを目的にそれを管理されているということについて、ちょっと言葉がうまく通じないところをうまく掘り出しながら、地元の方と行政の思いを結び場を作っていく活動をされています。ぜひこれはみなさんにも活動を知っていただきたいということで推薦をしました。

もうひとつが「勝部自治会」さんです。こちらは、今宿川・中水川という、街の中をながれる川を舞台に、実際に川を守るというよりもそこをひとつのヒントにお祭りですとか、いろんな人たちが集まってイベントをしていくという活動をされています。本当に驚いたのがありとあらゆる自治体のみなさんが、本当に協力をしながら川と向き合って地域を盛り上げていらっしゃる。自治体というとどちらかというめんどうくさいことはしたくないとか、例えば、大きな木を植えると「その落ち葉は誰が片付けるんだ」というような批判もあるかと思うのですが、そういったこともみんな前向きにとらえて自分たちに何をやっていけるのかということをどんどん膨らませていらっしゃるということで、非常に大きな驚きとともに、こちらを最終的に選出させていただきました。

ただ先ほども申し上げたのですが、本当に甲乙つけ難くて、実はもうひとつ最後に残ったグループというのが、「西野郷土研究会」さんです。西野水道という地域の資源をつかって、それをどうやってみなさんに伝えていくかということを実際に熱心に活動されています。私もはじめて聞いたんですが、昔の方が水害から地域を守るために私財を全部なげうって、自分たちの財産を守ってくださったということを如何に伝えていけばいいのかということを取り組まれています。

この3個が最後に残りました。そのときに、琵琶湖河川レンジャーさんから非常に奥ゆかしく、「私たちは辞退します」ということも申し上げていただいたのですが、そこは平等にまずは投票しましょうと決まったのですが、気持ちとしては本当に3つ、できれば5つをそのまま最終選考に残りたいという雰囲気、テーブルBの選考が続きまして。

残りのふたつも甲乙つけ難くて、非常に大きな地震や水害が起こった時に、昔の人たちの知恵が今の世の中にも本当に役に立つということがいろんな意味で明らかになっているのですが、「水害履歴調査隊」のみなさんは、滋賀のそういった**水害の履歴をきちんと聞き取りをして、実際にこれからの世の中に活かせる形で残したいと**、ホームページなどもきちんと作成されています。これからどんどんどんどんこういった活動が広がるのが望ましいなどお話ししていました。

「山内エコクラブ」のみなさんは、おじいちゃん・おばあちゃんから教えてもらった昔の暮らしのエコの様子を発表してくださいました。今の劇は3月に発表されるということで猛練習中ということですが、『**エコ宣言**』を作られています。**おじいちゃん・おばあちゃんから聞いた言葉を、子どもたちが生き生きと語ってくれました**。今、おじいちゃん・おばあちゃんから子どもたちが話を聞けるように、今の子どもたちが自分の孫たちに伝えるようにするために私たちは何を残していけるのかをぜひ考えながら活動をしてほしいというお話をしました。

今回2つのグループを推薦させていただきましたが、**残り3団体にも復活選考で復活してもらえよう**にみなさんぜひお話をきいてあげてください。

テーブルC (テーブル・コーディネーター さとうひさ彙さん)

みなさんお疲れさまでした。

テーブルCですが、熱く誠実な活動をされている団体ばかりで、主体もいろいろで、なかなかここから選考するというのも難しかったです。その中で、「白鳥川の景観を良くする会」さんと、「NPO法人蒲生野考現倶楽部」さんを推薦することになりました。この2つは活動内容が大変充実していることと、魅せる力が他の団体と比べて抜きん出ていたかなと思います。

復活選考で他の団体のみなさんを応援してほしいののですが、「琵琶湖自然環境ネットワーク」さんは、**自然治癒力でヨシ帯の再生**を目指して、大変地道な活動をされていました。

「琵琶湖総合保全ワーキンググループ有志」の皆さんですが、今回人の感覚による**琵琶湖のモニタリング調査**をされていて、みなさんの意見もお聞きしたいと発表に臨まれたということです。復活選考の場でもみなさんの意見をそこで届けていただけたらなあと思います。

「白鳥川の景観を良くする会」さんですが、非常に発表の仕方も分かりやすく、元気で楽しく活動されているということと、客観的なデータを分かりやすく提示してくださって、活動の厚さを感じさせてくれました。

「滋賀県流域政策局有志」のみなさんですが、生活者の感覚に近い行政マンの方たちが、**戦う行政マン**という言葉も中で出てくるくらい、熱く対策にとりくんでおられる姿が印象的でした。



「NPO法人瀬田川リバブレ隊」のみなさんですが、こちらも非常に地道な活動をされていて、子どもたちが参加してくださるようにならぬ努力をされていました。「子どもたちに背中を見せるということも大切な取り組み」という意見も選考員から出され評価されていました。

「NPO法人蒲生野考現倶楽部」さんですが、「たんけん・はっけん・ほっとけん」ということで、いろいろな場面に子どもたち3人が行って他の活動にも元気を与えているんじゃないかということや、パネルを見て頂ければと思うのですが、新聞がとても魅力的だということでも評価を受けていました。

全体討論

総合コーディネーター：福廣勝介さん

コメンテーター：嘉田由紀子さん、片寄俊秀さん

全体選考員：大橋正光さん、山道省三さん、遊磨正秀さん、朴恵淑さん、山崎文男さん

全体討論における発表団体：10団体

テーブルA

〈推薦〉A-1 「奥村堤」の会

【復活】A-2 環境フォーラム湖東

〈推薦〉A-3 巨木と水源の郷をまもる会

テーブルB

〈推薦〉B-2 琵琶湖河川レンジャー有志

〈推薦〉B-3 勝部自治会

【復活】B-4 山内エコクラブ

【復活】B-5 西野郷土研究会

テーブルC

【復活】C-1 びわ湖自然環境ネットワーク

〈推薦〉C-3 白鳥川の景観を良くする会

〈推薦〉C-6 NPO法人蒲生野考現倶楽部

(注：〈推薦〉はテーブル選考で推薦された団体、【復活】は復活選考で推薦された団体)

福廣さん：さて、全体討論でございます。選考のプロセスも楽しめるものです。昨年、片寄先生も「賞をもらっても大儲けできるものではない」とおっしゃっていましたが、**たくさんの視点、考え方をみんなで見て、総合評価していく場**となります。10団体の方に全員の皆さんに聞いていただけるように、発表5分、質疑5分をお願いいたします。まずは、A-1「奥村堤」の会からご発表いただきます。午前の発表と重なってもいいし、違うバージョンで発表いただいてもかまいません。どうぞよろしく申し上げます。

「奥村堤」の会：「奥村堤」の会は東近江市五個荘奥町で立ち上がった会でございます。本日は今までの取り組みを発表させていただきます。

五個荘奥町は 100 戸の集落でございます。愛知川中流左岸地域に位置し、いくつかの水害に悩まされております。一つは、大正5年6月、梅雨の大雨で堤防が決壊しました。そして、その1年後にようやく堤防復旧工事が完成しました。この写真は、堤防を直されているところでございます。



今までいくたびか水害被害に会い、それらの歴史的な事実を風化させずに後世に残していこうということと、今ある堤防はどうなっているのか、清掃をしながら、堤防の状況を区民の皆さんに知らせるために活動しています。

しかし、今ある堤防をどうやって守り続けていくことを考えると、やはり組織の力が必要でございます。そこで、私たちは、平成21年4月に「奥村堤」の会という組織を立ち上げました。

その基本的方針は、「まず、自分たちでできることは絶対にやるんだ」「しかし、できないことは市や県にお願いします」ということでございます。

自治会有志のメンバーは合計63名で、うち女性7名でございます。年齢は34才から81才でございます。今私たちが行っている活動は、年5回の清掃ならびに周辺の草刈りでございます。年1回自治会の防災活動に参加します。そして、年3回機関紙を発行しています。

真ん中の写真で、堤防天端に芝生を植え、区民の皆さんに入っただいて、水とも親しみながら活動していただきます。帰る際には、前に大きな堤防があり、すぐ近くに民家・集落がありますから、水害へ備える意識を持っていただき、また、ご家庭でも話をさせていただきたい、そのような考えがあり、芝生を植えさせていただきました。

堤防の清掃が大事です。堤防にどのような異常があるか、また、亀裂があってもすぐさま発見できるように、草に覆われないようにつるつるにしたいという思いがあります。

また、2年ほど前に、河川内の雑木を県の方で切っていただきました。しかし、

2年経つと、小雑木が育ってきています。これを放っておくとまた、県の方でお金をつかって切っていただかないといけなくなる。そんなことを何度もすることは「もったいないな」と。「もったいない」意識は、昔から、親から十分に教えてもらいました。

そこで、「今の小さいうちなら、自分たちで十分に伐採できる」「それを年々続けていけば、ここでは、県の方で木の伐採にお金をつかわなくても済む」「ぜひ私たちに伐採させてもらわなければ」ということで、県の方に奉仕させてくれ、と言って実施しています。

「奥村堤」の会は、**小さなことしかできません。しかし、小さなことを続けてやっていたら、集落や地域が良くなると思って一生懸命頑張っています。**

どうもありがとうございました。(拍手)

福廣さん：ありがとうございました。さっそく「もったいない」について、ご意見がありましたら。

嘉田知事：ありがとう、**知事表彰をこの場で出させてください。(会場：笑)**

木が大きくなったら税金がもったいない、だから、**自分たちで小さいうちにちゃんと木を切って、そして、見回りをして子どもたちに伝える。**会場の皆さんからも、納税者としても拍手いただきました。(拍手)

「奥村堤」の会さん、ありがとうございました。

福廣さん：**「小さいうちに」キーワードが出ました。**

さて、票を持っていただいている選考員の皆さんからご質問・コメントをいただきたいと思えます。



大橋さん：私は、日野川沿川に住んでいまして、日野川の苦しみを十分味わっているのですが、「奥村堤」の会の愛知川では、昭和 28 年の洪水が最後ということは、それから 60 年近く被害が起こっていない。改めて平成 21 年にこのような会をつくられた動機を教えてください。

「奥村堤」の会：3年前に自治会長をして、堤防の中を眺めていたら、「**せっかく堤防をきれいにしていただいたのだから、何か自分たちでできることをお返ししていかなければならない**」「**まずは堤防をきれいにすることから始めよう**」というので、

活動を始めました。

大橋さん：私のところは、昭和34年の伊勢湾台風の被害を受けています。それから、50数年経ちまして、経験した人は被害を認識しているのですが、住民の皆さんの意識は希薄になってきています。「そんなことあったのか」と、他人事になってきているのが現実なのです。

「奥村堤」の会は、「堤防をきちんとしてもらった。これからは自分たちで地域を守っていかねばならない」ということで実行された、素晴らしい取り組みだと思います。是非、**次の世代に継承**していただきたい。

私どもも、継承していくのにどうしていったらよいのか、という悩みを持つものとして、連携させていただきたいと思います。

福廣さん：大橋さん、会場の皆さんに自己紹介をお願いします。

大橋さん：私は、実行委員長の北井さんと一緒に「滋賀県で流域治水をどのように取り組んで行くべきか」考える住民会議を作ったときから関わらせていただいています。それ以前からも、「日野川を見守る会」というNPOをつくらせていただきましたし、また、日野川をどうしていくか、という川づくり・まちづくりについて関わらせていただいています。

特に「流域治水」については、是非、実現していただきたい。「地域は地域で守るんだ」という原点に立って、取り組んでいくことが基本と考えております。「奥村堤」の会も一生懸命取り組んでいただいていますので、共鳴させていただきました。（拍手）

福廣さん：ありがとうございました。

山道さん：**大変緊張感を持って活動されている**し、聴く方もすごいと思ったのですが、水害被害に気付くために、若い方たちも入ってもらっていると思うのですが、水防のための活動に加えて、作業の後の「楽しいこと」も聞きたいのですが。

「奥村堤」の会：私のところは、何かすると後で「お酒」が出ます。（会場：笑）

「酒を飲んでいろいろ喋ろう」ということが定番になっていますので、お酒を飲んでいきます。年5回清掃をしています。その後、会費300円をいただいて、ビール2本。（会場：笑）

うち1回は会費が500円になり、つまみもでる。これは、嘉田知事が蒲生町の茜ホールで講演された際、「活動の後でみんなでわいわいやらなあかんで」と言わ

れて、「それはそうですなあ」ということで、続いています。(会場：笑)(拍手)

福廣さん：ビールという大事なことを教えていただきましたが、もう一つ、午前中の発表でもありました、「釣り鐘」についても皆さんに聞いてもらったら。

「奥村堤」の会：昭和 28 年に堤防が決壊しています。その時に「堤防決壊したら釣り鐘を鳴らしてお寺に逃げよう」と。釣り鐘のあるお寺は、普通の家よりは高いところにあり、水害が来ても大丈夫だ、ということで、「水害は釣り鐘・火事は半鐘」とすみ分けをしています。音で何が起こっているのかを伝えて、「水害だったら高いところへ逃げる。火事だったら田んぼに逃げる」と地域で決めています。

朴さん：三重大学の朴と申します。川をどう考えるかというときに、最近の大きな流れとして、「3・11」「防災」という側面からも考えないといけません。が、「奥村堤」の会は、水害経験があり、「このような被害が起きないように」と、楽しくやっていたいながらも、きちんとした緊張感をもって防災活動をやっておられると思います。

34 才から 81 才のメンバーで、女性が 7 人で男性が多いということで、若い人たち、特に大学生なども含めて若い人たちの活性化と、若い人たちは防災について学校で学ぶけれども、体験をしたことがないことから、実際に水害経験のある方のコミュニケーションがとれれば最高によいのではないか、という応援を込めたコメントをさせていただきます。(拍手)

山崎さん：私は、大阪の高槻に住んでいるのですが、高槻で防災を進めたいと思ってやっているのですが、住民の方は「我関せず」「下水が発達しているから何とかなるやろ」という感じで、なかなか身近に感じないということがあります。

「奥村堤」の会は、本当に素晴らしい活動をされていて、感心しました。こういう活動を、我々に近い人間にも「危ない」ということを話していただいたら、我々のところもピリッとするかな、と、私自身も含めて感じさせていただきました。ありがとうございました。

福廣さん：「奥村堤」の会さん、ありがとうございました(拍手)。次は、環境フォーラム湖東の発表をお願いします。

環境フォーラム湖東：よろしく申し上げます。復活選考で選んでいただきましてありがとうございます。

環境フォーラム湖東は、平成16年に湖東土木事務所管内の3河川、芹川・犬上川・宇曾川流域で環境に関心を持たれる団体・企業で構成しています。前身となる、平成13年の湖東地域エコトピア推進会議では、「環境教育」「ゼロエミッション」「水の浄化」の3本柱で行っていました。

本日は、特に力を入れている、地域の子もたちにアピールする取り組みを紹介します。生き物調査を毎年行っていますが、今まで、「セミの抜け殻」「ひつつき虫」「ホタル」「ツバメ」「外来植物」などの調査を行ってきました。小学5年生を対象に調査票を配布し、調査してきました。



報告していただいた内容を11月のシンポジウムで発表しています。この発表は、一般の方々・親子連れに来ていただけるように、最近ではビバシティ彦根で行っています。

シンポジウムでは、基調講演・調査内容の報告・特に印象に残った報告者への表彰を行っています。その後、「体験教室」を開催し、折り紙・ソーラーカーなどで、関心を持っていただけるようにしています。

また、年3～4回「エコ・サロン」を開催し、環境に関する活動をされている方に講演いただき、私たち会員が勉強しています。よろしくお願いします。（拍手）

福廣さん：幅広い活動に8年間も取り組まれているということです。ホタルの話もできましたので、遊磨さん、いかがですか。

遊磨さん：遊磨と申します。生き物についていろいろ調査をしております。昔はホタル、最近は魚を中心に調べています。いつも人と違う立場の芽を探すことを得意としています。環境フォーラム湖東では、いろいろな生物調査をされていますが、どのような発見・驚きがありましたか。

環境フォーラム湖東：ホタルでは、ゲンジボタルとヘイケボタルの2種類の調査を行いました。マップ上にゲンジボタルとヘイケボタルの違いを記す方法で調べてもらいました。**私たちが見る目と子どもたちが見る目が違います。**最近では、親が子どもを連れてホタルを見に行くということが少なくなってきました。だから、私たちが行う観察会は、安全・確実にホタルを発見できるということで好評を得ている。まちなかではホタルが見られないことから、初めてホタルを手のひらにのせたという

感想もいただいています。

ツバメは難しかったが、まちなかでは営巣する場所が少なくなっているし、田舎の方でも少ない。調査すると、新興住宅地の建物の構造によって、巣をかける家と巣をかけない家がありました。入口のドアの前に門がある家に巣がありました。多いところでは2個・3個巣がありました。また、河川近くでは、5年生を引き連れて、イワツバメの調査も行いました。

遊磨さん：人間は自分たちのために環境を変えたり、保全したりしているが、生き物は自分たちの目でみることとなります。子どもたちの目は大切にしてください。

環境フォーラム湖東：ありがとうございます。

福廣さん：お聞きすると新しいエピソードが出てきます。

山道さん：この発表は大したことないと思っていたが、すごい活動です。特に、エコ・サロンはどこでやっておられるのですか。

環境フォーラム湖東：年に3・4回、小さな喫茶店や、会員さんのレストランを借りてやっています。500 円のワンコインで、マイカップ・マイ箸を持参で茶話会をしています。

片寄さん：ツバメのように営巣場所を探しているのですね（会場：笑）。新興住宅地でのツバメの例は画期的です。住宅メーカーも「豊かな家」として宣伝できます。

申し遅れました。片寄と申します。第1回のフォーラムで司会をいたしました。嘉田さんとは、全国大会で審査員としてご一緒させていただきました。専門は都市計画・まちづくりです。川と下町が好きです。

福廣さん：環境フォーラム湖東さん、ありがとうございました。（拍手）

巨木と水源の郷をまもる会さん、お願いします。

巨木と水源の郷をまもる会：巨木と水源の郷をまもる会の、今城、川村、本田から発表させていただきます。

湖西地域・安曇川の源流で活動しています。森林と共生する食文化として、多くのトチノキが残されてきました。それが、山村の衰退とともに買い付けがなされ、伐採されてきました。

過去3年間で60本の巨木が伐採されてきましたが、これまでの活動の中で、これら巨木群は他の地域にはない、西日本でも有数のものという評価を受けました。

そのことに地元の方も気付かれて、地元の方が立ち上がられた保全活動です。買い付けられた 32 本について、契約解除となりました。

平成 23 年度の活動は、渓谷沿いのトチノキの現状調査を行いました。

トチノキの巨木群の写真を見てください。琵琶湖の水源を守るために、朽木の山奥で何百年も生きてきた宝物です。杉やヒノキの人工林の中で、トチノキの巨木が残されてきました。トチノキは人の生活と一体となってきたからで、残されていることをうれしく思いました。



巨木調査員は 33 名おり、地元山主、定年された会社員、カメラマン、登山家、学生、いろいろな人が楽しんで調査しています。是非調査に参加してください。発表者が肩を吊っているのは、巨木調査ではなく、スキーでのけがです。(会場：笑)

トチノキを中心とした研修会や観察会も行っています。朽木での山仕事や伐採業者とのやり取りなど、いろいろな面白い話を織り交ぜてのガイドです。トチノキが琵琶湖に流れる源流一滴一滴を守っていることを肌で感じることができます。

実際に、今年度、3,800mの歩道をつくりました。調査を通じて地域での信頼関係を醸成し、多くの人材も見つかりました。また、所有者との巨木保全協定で、地域の意識がさらに高まりました。

課題としては、契約解除した 32 本の巨木について、伐採業者から裁判を起こされました。もし裁判に負けて伐採されると、せっかくここまで守ってきた地域での失望感は非常に大きくなります。

また、所有者によって意識の格差があり、個人資産と考える所有者もおられ、地域で抑えてもらっています。500 年も生きてきたものを個人財産というのはどうなのだろうと思います。

最後に、銘木市場からの伐採圧力が強く、調査結果の公開をどうすればよいか、また、どうして守っていくか、課題となっています。

これからも頑張っていきますので、皆さまの理解とお知恵をいただけますよう、よろしくお願いします。(拍手)

福廣さん：ありがとうございました。滋賀は湖国ですが、山国でもありますね。

朴さん：もめごとに対する韓国的な解決策をヒントとして紹介します。韓国では派手

に、短時間で、皆の力を収斂して立ち向かうことを得意としています。一気に盛り上げるために、地域のリーダー格の方々と話をして、集会を開き、メディアに報道いただき、知事・議員など、地域のトップに理解をしてもらって応援をしてもらいます。

500年生きている木を育てることは大変なことであり、教育機関も含めていろいろなところと連携をすることがいいと思います。また、韓国式の決定的な方法はのちほど。

山道さん：2つ質問があります。1つは、巨木のスケールの調査もされていますが、巨木の云われは調査されていますか。巨木保存運動には、物語性があるって、神木化している事例が結構あります。古老からきけば、何か話があると思います。それは保全に結びつく話となります。埼玉では、河川改修時に並木を保全するために、木にしめ縄を巻きました。そうするとみんな伐採をしたがりません（会場：笑）。

保全を進めるやり方として、そういう発想があっていい。物語は調べれば出てくるでしょうし、なければつくればいいんですよね（会場：笑）。10年も言い続けられれば本当になります。

もう1つは、協定の面白いところはありますか。

巨木と水源の郷をまもる会：トチの実を食べる食文化によって意図的にトチノキの巨木が残されてきたということを聞いています。今後、そこをさらに深く調査してみたいと思います。

協定については、行政と所有者とまもる会の3者で締結しています。5年間切りませんという内容の協定です。法的に「5年間」としかできないのですが、5年間のうちに、巨木を保全する制度に同意してください、という文章が書かれおり、橋渡しとなる協定です。

遊磨さん：トチの実が巨木からどれくらい採れるのですか。

巨木と水源の郷をまもる会：鹿に食べられた実もありますが、1日おきに8回取りに行くと、1,200個採取できました。

遊磨さん：この実を食べると長生きできるという伝説はありますか。

巨木と水源の郷をまもる会：朽木に住んでいるお年寄りに認知症の方はおられません。

だから絶対に体にいいと勝手に思っています。

福廣さん：韓国式の議員「バッジ」をつかうとか、日本式の「バチ」をつかうとか、

運動のノウハウが出てきますね（会場：笑）。ありがとうございました。（拍手）

嘉田さん：県職員も発表者として参加していますが、このトチノキの巨木の話は、昨年のこのフォーラムで発表されて、川と森がこのフォーラムでつながりました。

韓国式と日本式のすごい知恵をいただきました。これは行政にはない知恵ですから、是非皆さん、応援よろしくをお願いします。

福廣さん：次は、琵琶湖河川レンジャー有志の皆さん、よろしくお願いします。

琵琶湖河川レンジャー有志：琵琶湖河川レンジャーの平山、伊東です。

早速ですが、琵琶湖河川レンジャーの名前を聞いたことがある方は挙手をお願いします。（会場：挙手多数）

すごいですね。涙が出ます。その中で、活動の内容まで知っている方は。

数はずっと減りますね。ありがとうございます。

琵琶湖河川レンジャーの活動は6年目になりました。初めの方は、「何色ですか」「ショーするのですか」という反応でした。それが、やっとここまで名前が浸透してきたのはすごくうれしいことと思っています。

今、私たち2名の他に2名、あわせて4名で活動しています。

コーディネーターは中立の立場でないといけないとおっしゃる方もいますが、私たちは、地域の方にお話を聞くときは地域の方に思いを寄せています。行政の方からお話を聞くときは、行政の方の立場を理解するために心を寄せています。その上で、「何が同じ思いなのか」「何が違うのか」「課題は何か」を考えながらコーディネート活動をしています。

私が活動している瀬田川での事例をお話しします。

いろいろな人がそれぞれに、瀬田川への想いを持っておられます。その想いを共有すること、課題解決のために各主体が協働することを大切にしています。その結果として、地域の方・行政の方が瀬田川や散策路に対して親しみを感じ、安全に利用することができ、さらに大切なことは、継続的に川のお世話をできることがミッションと考えて活動しています。



課題の一例として、草刈りの問題があります。

問題点は、行政が草刈りを行う時期と地域の方が草刈りをして欲しい時期がずれていることです。草を刈る目的が違うから、時期がずれてしまいます。

具体的には、地域の方は観光シーズンに見栄えがするように、とか、歩行時に危険だから、草刈りが必要と考えられます。一方、行政の目的は、出水期に堤防のチェックを行うために草刈りを行います。草刈りの回数を増やすことができません。

解決するために、まず、地図を見ながら、地域・行政が思いを共有する場を設けました。お互いの主張・目的・思いがあるので、会議の場では平行線となります。そこで、現場・外へ出てみる、一緒に汗をかいてみる場を設定しました。**草刈りを一緒にやったのですが、草を刈ること自体が目的ではなく、こういう場を通して、いろいろな主体の思いを共有することが大切です。**思いを共有するプロセスそのものが大事だと思っています。最後に、**共有した思い、聞いた思いをマップに可視化し、**河川レンジャーの活動としてまとめています。

こういう活動に共感をいただけると、私としてもうれしいし、河川レンジャーの励みになります。また、すでにコーディネータとして活動されている方がいらっしゃったら、是非連携させていただきたいと思っています。

ありがとうございました。(拍手)

福廣さん：ありがとうございました。

片寄さん：淀川の河川レンジャーの選考員をつとめています。淀川では 50 人程度おられまして、子どもがたくさん集まってくる素晴らしいおじいさんもおられます。瀬田川での活動は進んでいますね。交流はあるのですか。

琵琶湖河川レンジャー有志：はい、少し交流も始まっています。でも寄る機会がないのです。(会場：笑)

福廣さん：僕も**河川レンジャーを誤解していました。つなぎをすると知らなかった。**このような方々ならうまくつなげてくれると感じました。

山道さん：河川レンジャーに愛称はないのですか。「河川」というと「堅い」イメージがあります。

琵琶湖河川レンジャー有志：「河川レンジャー」は国土交通省の制度でして、淀川でも宇治川でもみんな「河川レンジャー」となっています。その中の「琵琶湖河川レンジャー」としてはいます。愛称は今のところありません。

山道さん：制度名は、役所が付けた堅い名前なので、それは小さい字にしておいて、「**な**んとか隊」とかつけた方が人が集まりやすいと思います。

琵琶湖河川レンジャー有志：そうかもしれません。名は体を表していなくて（会場：笑）、中身を理解していただきにくいので、名称について、これまでも議論はありました。

嘉田さん：あの、河川レンジャーの名前を付けた（会場：笑）、淀川流域検討委員会の最初のときに、「行政」と「住民」をつなぐ役割が必要だといって川上さんと私が言っていました。

そのときに、私は「河川レンジャーは堅いので、「川守りびと（かわもりびと）」という名称を必死に出したのです。川のもりをするという感覚と、行政と住民・ひとをつなぐという目的だったのですが、結局「川守りびと」は制度名称として選ばれなかったのです。

また、手当についても、若い人がちゃんと暮らしていけるように、月20万円を提案したのですが、月5万円になってしまいました。

ということで、近畿地方整備局の権限が関西広域連合にきたら（会場：笑）、もう少しちゃんとしたお給料が払えると思っています。

是非、頑張ってください。ありがとうございます。

福廣さん：愛称はみんなで考えるといういろいろ出てきそうですね。

朴さん：私も嘉田さんの「川守りびと」はいい名前だと思います。実績や事業評価のことを考えて、「河川レンジャー」という制度になってしまったのだと思いますが、**制度名は制度名として、これからは愛称として変えて行けばよい**と思います。応援しています。

琵琶湖河川レンジャー有志：今まで、活動の内容が十分に伝わっていませんでしたので、「**名前と活動が違う**」ということがお伝えできていなかった。活動を知っていたことで、名前が違うということに気づいていただいたことをうれしく思っています。ありがとうございました。

福廣さん：ありがとうございました。続いて、勝部自治会の皆さん、お願いします。

勝部自治会：勝部自治会の小林でございます。よろしく申し上げます。勝部自治会は、JR守山駅前に位置しています。世帯数約1,800戸、人口4,300人弱の市内で2

番目の大きい自治会です。

十数年前に改修されました「たちばな川」が流れ、楓三道と名付けられた道には「トウカエデ」が植えられています。たちばな川の改修依頼ずっと、毎月2回、自治会で楓三道の清掃を行っています。



地球温暖化対策として、地域でも環境に関心を持ってもらえるように、4年前に環境推進会議を立ち上げました。

勝部の水辺環境を守るために、川の清掃・水草の管理・花の世話をしています。

むらづくり委員会・環境推進員・自然を守る会・各種団体の代表が推進会議のメンバーとして活動を進めています。

時を同じくして、野洲川支流の今宿川・中水川が改修され、川沿いの遊歩道が整備されました。遊歩道の植栽コーナーに植える低木は、むらづくり委員会で、季節感と管理性を検討して計画し、メンバーで植栽しました。

むらづくり委員会では、平成21年度に、町内で親しみをもってもらうために、遊歩道のネーミングを公募し、「かつべ ほたる 北の道」「かつべ ほたる 南の道」に決定しました。

これを機に、平成21年7月21日に、「かつべ 水フェスタ」を開催しました。二ゴロブナの放流や、田園文化センターの中村一雄先生と水辺の学習を行いました。会員300名の子ども会の児童が道路・河川の清掃をしながら会場まで来てもらい、親子のふれあいをしてもらいました。青年団の皆さんには、子どもたちの見守りやかき氷を出していただきました。環境の観点から、拾ったごみや自分たちが出したごみも、しっかりと分別に取り組みました。

第2回のフェスタでは、子どもたちが手作りした看板の除幕式を行いました。今回は、大人も中村先生による水辺の学習に参加しました。

第3回のフェスタでは、豊穰の里の方のお話を聞いた後、中村先生とともに中水川に戻って来た魚を学習し、二ゴロブナの放流を行いました。

雨水幹線が完成し、去年は、今宿川・中水川・たちばな川が溢れることはありませんでした。今宿川ではホタルが少し戻り始め、中水川ではかつていた魚が見られるようになりました。

今年は4回目の水フェスタとなります。水辺の心地よさを体験し、遊んだりすることができる水辺空間で命を引き継いでいけるよう、豊穰の里や田園文化センターの中村先生の支援を受けて活動を続けていきたいと思いをします。

ありがとうございました。

福廣さん：ありがとうございました。

山崎さん：皆さんの力がひとつになった素晴らしい活動だと思います。どうやってかたちづくって行かれたのですか。

勝部自治会：もともと勝部には老人クラブや婦人会といった各種団体がありました。それら団体の代表の方々や、改修される川周辺の班長さんに声をかけて、委員会を組織した、と聞いています。県から説明に来られた際にも、各代表の方々から、自分たちの意見を出してもらいました。だから、組織として立ち上げることはそれほど難しいことではなかったと思います。

環境部では、市から委嘱を受けた環境推進員を中心にしてごみ問題を議論していましたが、みんなで考える方が町全体を動かせるだろうということとなり、環境推進会議を立ち上げて、各種団体の代表や班長さんに参加してもらいました。

山崎さん：広い世代が参加されていると感じましたが、いかがですか。

勝部自治会：はい、お年寄り、若い方、子どもたちまで、すべての世代が参加しています。

大橋さん：自治会での取り組みは、会長や役員が変わったりして、まちづくりの取り組みに温度差が出てくるものです。私のところでも、平成4年に近隣景観形成事業を始めたが、まちづくりの会長は10年間張り付いて取り組まないと事業ができないと感じました。

平成20年度からの勝部の取り組みも、どうやって継続していくか、ということが課題になってくる時期と思います。補助金も減ってきていると思います。

1,800戸という大変な戸数をまとめていることに敬意を表しますし、これからもまちづくりに取り組んで行って欲しいです。私のまちからも是非勝部の取り組みを学びに行きたいです。ご活躍を期待しています。

勝部自治会：ありがとうございます。是非おいでください。まちづくりの人たちが縁の下の力持ちになって動いてくれていますので、継続できると思います。お金については、市からの補助金はもうないのですが、大きな自治会なので、環境への資金も

多少あります。

福廣さん：ありがとうございました。世代交代はどこでも問題になっています。大橋さんのところではまちづくりの会長が10年間固定というのも面白いですね。

大橋さん：ただ、同じ会長や役員が継続するとマンネリ化してしまいます。**適度な世代交代は必要**だと思っています。

勝部自治会：勝部自治会では、会長は2年交代でやっています。新しい方が勝部の考え方を引き継いで活動してくれています。

嘉田さん：勝部には毎年1月8日に、800年継承されている大きな火祭りがあります。それだけに、旧住民の結束が強く、駅前の新住民との間をどうやってつないでいったのですか。工夫や苦労を教えてください。

勝部自治会：私は旧住民といわれるところに住んでいます。まちづくりの委員長は新しい住民です。まちづくり推進委員はほとんどが新しい住民さんだと思います。私の印象としては、班長さんとして自分の意見を持って活動されるのも、新しい方が多いと感じます。新しい方はいろいろな発想をもっていらっしゃるので、とても助かっています。

福廣さん：**新旧住民が一緒に取り組まれている**ことはいいですね。勝部自治会の皆さん、ありがとうございました。

さて、次はたくさんのお子さんが出てきてくれました。「山内エコクラブ」の皆さん、よろしくお願いします。

山内エコクラブ：私たちは鈴鹿山ろくのふもと、琵琶湖に注ぐ野洲川の源流にあります。甲賀市山内からやってきました、山内エコクラブです。僕たちの住む山内は美しい自然、お互い様の心を大切にしています。豊かな水文化があります。例えば、あの冬の太鼓祭りです。これは、昔日照り続きで田や畑に水がない時に山の上で火を焚き、太鼓を鳴らして踊ったというものです。今も、4月と7月には地域で太鼓祭りが行われ、雨乞いと豊作を祈っています。また、水をととても大切にされています。お正月のお鏡餅をお供えしたり、田植えが終わった時期に井戸の神様にお祈りをされるようです。

このような話を教えてくださるお年寄りの方々のお話を聞くことが大好きです。今年は、自然に感謝し、自然と仲良く暮らしてきた地域のお年寄りの4人の方に、

昔の水と暮らしについてお話を聞きにいきました。

「お、おっちゃん、こんなところにいやはった。おっちゃん。」

「なんや、なんや。」

「おっちゃん。何やってんの？」

「今な、鮎を採ってるんや。」

「鮎って釣れるの？」

「ああ、おるで。でもな、減ってしもたわ。昔はここら辺やったら、1日百匹ぐらい鮎がいたんやで。」

「昔はたくさんのお魚がいたんやね。」

「他にはどんな魚がいたんですか？」

「ギギにな、20cm ぐらいのヤツメウナギ、ムツ、ハイ、ナマズがいたんやで。これはな、頭首工がなかったで、琵琶湖から遡上して来たんや。鮎は縄張りがあるんやで。そういうことも知ってへんとあかんのやで。」

「昔の話を教えてください。」

「ああ、昔は水を大切にしてたんやで。今やったら水道の蛇口をひねったら、水がジャージャー出てくるけどな、水は神様からいただいた大切なもんやでな。昔はお風呂なんか毎日沸かさへん。近所で3軒ぐらいがもらいに行って廻ってたんや。」

「おっちゃん、ありがとう。」

昔は家にある畑のものを食べたり、川で遊んだり楽しかったようです。今の私たちの生活は電気や水や食べ物がたくさんあるけど、もったいないことをしていることに気がつきました。限りある資源を大切にするため、一人ひとりの心がけが大切です。今の私たちは、昔の暮らしには戻れないけれど、今自分たちができることを考えました。私たちにできるエコ宣言5か条です。

1. 水を出しっぱなしにしない。
2. お風呂の水を利用する。
3. 洗剤を使いすぎない。
4. 食べるものに感謝して残さない。



5. 天気の良い日は外で遊ぶ。

私たちは地域の人に昔の暮らしのよさ、そしてそれを教えてくださるお年寄りの方の知恵を伝えていこうと思っています。3月には地元のリゾートホテルで地域の方々と、今年で3回目になるふれあいコンサートを行います。そこで、山エコ劇場として「水は天からの授かりもの」の劇を猛練習しています。

私たちの住む山内のよいところを、これからももっともっと見つけていこうと思います。ありがとうございました。

福廣さん：劇の発表日は3月11日の日曜日らしいです。もう、質疑なしですって劇をしててもろてもよかったという感じですけど。感動やったら感動だけで、質疑はパスでもいいんですけど。

山道さん：エコ宣言、すばらしい宣言だと思いますけれど、みんな守って暮らしています？（笑） そうだね。守っているよね。でも、義務的じゃないなということも何かやっています？もしあったらちょっと聞かせてください。反省点を。

山内エコクラブ：やっぱり忘れてて、電気を点けばなしにしておいたり、あとは、シャワーを出しっぱなしにしていたりしていることが反省点です。

山道さん：ちゃんと反省はしているんだよね（笑）。エコ的じゃないなというところがあれば。なければいいです。

福廣さん：山道さん、反省せえへん大人とは大分ちゃいますね（笑）。

山崎さん：さっきちょっと質問した地域の住民と結構交流が深いというか、そういう感じだったので、何か言うことがあれば言ってもらえればと思うんですけど。

山内エコクラブ：私たちの地区は今子どもの人数はとても少なくなっていて、お年寄りの方がとても増えてきているので、お年寄りの方の昔の知恵をうまく使わせてもらって、これからも山内が元気になるように頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。家のおじいちゃん、おばあちゃんとかのお手伝いもなるべくやるようにしています。

山崎さん：先ほどあちらの方のポスターのところで聞かせてもらったんですけど、お年寄りの世代の方のゴミ出しを自分たちがすすんでやっているということで、「どれくらい運ぶの？」って聞くと、「300メートルぐらい」ということで、それはお年寄りにはたいへんなことなんですが、すすんでそういうこともやっている

いうことを付け加えたかったので、言わせていただきました。

福廣さん：よろしいでしょうか。知事、「お互い様」というところでコメントをひとつ。

嘉田さん：「もったいない」心と、「お互い様」の心を、こうやってみんなが受け継いでくれるというのは、滋賀県の未来も明るいですね。本当に嬉しいです。最上流の山内から、そして山内エコクラブで最初に火をつけられた、井阪先生はおられますか？えっ、帰った。去年、ここで「県会議員になる」って言って、本当に県会議員になってしまったみんなの先生が、今県会議員として議会でもいろいろ意見も言っただけです。どうも、ありがとうございます。

福廣さん：どうも、ありがとうございました。次は「西野郷土研究会」の皆さん、よろしくをお願いします。

西野郷土研究会：みなさん、こんにちは。今日参加の中で、一番北の端から出てきたと思います。朝出てくるときは、まだ雪がまるかぶり、朝5時に起きて来ています。

実は、私どもは長浜市高月町西野、80戸の集落です。比較的まとまりのある数かなと思います。そこに余呉川という川が流れておりまして、そこにある大きなトンネル、これは昭和55年に造っていただきました。その反対側には、県指定史跡の西野水道がございます。これは、今から172年前、集落三面が山に囲まれておりまして、琵琶湖に近いために地面が低い。そこへ余呉川が蛇行してきまして、大雨が降る度に氾濫しておりました。そうすると、水浸きになってしまいまして、1週間から10日水が引かなかったと。山に穴を掘って琵琶湖に注ごうという計画、これは村人が一生懸命になって6ヶ月かけて掘ったという水門です。

これは古文書なんかを調査する中で、学習用として我々グループが手作りしました等身大の像でございます。

6月6日に完成しましたその日を、先人を知ろうと神様の祭りとして、手作りの祭り、お金のかからない祭りとして、毎年実施しています。現在、27回目を迎えております。この時には集落だけではなく、学校、学区も含んだ活動として、小学校5年生が全員で水道劇、これは西野水道の勉強をする、あるいは体験学習をする中で自作していただいた祭りを水道劇として発表してもらってお



ります。

これは、学区だけでなく外部へも情報を発信しているということで「お便り風船」、この風船も環境にやさしい、土に還る風船を使用しております。この風船はどこまで飛んでいったかとみなさまお思いですか？ちょうど気流に乗りまして、310km、横浜まで飛んでいきました。その他に山梨県、それから長野県、静岡県、岐阜県、愛知県など至る所まで飛んでいまして、今も交流しております。これは交流先である静岡県、お茶どころなので茶切り娘の姿で花を添えていただきました。

これは、一昨年の10月14日に皇太子殿下が西野水道へお越しいただきましたので、案内させていただきました。その後、殿下は琵琶湖について調査をされまして、またそこに住む住民の暮らしについて、熱心にご見聞なさいました。



これは、余呉川に注いでおります堤防、両面1kmほどありますが、村人が一生懸命草刈りや清掃活動をしております。この日は小人足ですけれど、用事があって出られない人は事前に、こちらから言わなくても自分たちの分を刈っておられます。また、私どものすぐ後ろは琵琶湖に直接ですので、排水路の透視度調査なんかも順番に、定期的に行っております。

また、水環境について、小川の生き物調査や希少生物の調査を、自前の先生に、集落内に学校の先生がおりますので、教えてもらっています。これは魚つかみですね。これは、水道祭りの時に稚魚の放流ということで、魚に対する愛着、また琵琶湖で育つのを楽しみに、こういう活動もやっております。

これは特ダネ情報、みなさん、琵琶湖には「うみのこ」というフローティングスクール船がありますね。これは私どもの古保利小学校の児童会のネーミングです。また、シンボルマークも古保利小学校の教員が応募したものが採用されました。

これは子ども会のゴミ拾いです。琵琶湖の清掃を何回となくやっております。琵琶湖からあれだけのゴミが出ています。このように美しく、いつまでも続けたいと思います。その他、県営の遊歩道、「うみの辺の道」がありますが、自分たちの手で、今松枯れが発生しておりますので、倒れた木も自分たちで直しております。また、草刈りもやっております。その後、ウォーキングをやらせてもらっています。こ

の上には、古保利古墳群、国指定史跡になっている 130 基の古墳がございます。
また、小学校の見学の説明や大学生のフィールドワークの援助等もやっております。
以上です。ご静聴ありがとうございました。

福廣さん：ありがとうございました。古い歴史を勉強して、新しい仕事をいっぱい企画されていますが。さて、どなたかいかがですか。

大橋さん：西野水道というのはよく聞いてはいたんですが、実際こうして発表を聞かせていただいて、すごい歴史があるんだな、そして 170 年ですか、天保時代の状態であるということなんですが、それをきちっと井戸を掘った人の思いというのか、ありがたみというのか、それを継承していこうというのは、非常に立派なことじゃないかなと思っております。先ほどの発表でも、子どもたちまでその思いをきちっと伝えていこうとされることについては、これからもご活躍いただきたいなと思いますし、**他県にも風船を飛ばしてPR**していこうとされていますが、滋賀県全体の中でもう一つ、船のネーミングをつけたとかいろいろありますが、もう少しPRの仕方があるのではないかという感じがするんですが、これから滋賀県の宝として、私は守っていただきたいし、私も滋賀県の誇りとして取り組んでいける、遺産として西野水道を継続していただきたいと要望しておきたいと思います。

西野郷土研究会：ありがとうございます。今お言葉をいただきまして、その一環として**私どもの集落には史跡や伝説がたくさんございます**ので、それを口伝えだけではなく今若い人には伝わっていかない、また次の代に伝わっていかないということを我々グループは考えまして、**毎年一作ずつ紙芝居に展開いたしまして、集落内の文化祭で子どもたちや、新しくお嫁さんに来られた方達に知ってもらっております**。

山道さん：先ほどと同じなんですが、**次の世代にどうやって引き継いでいくのか**、これは「モノ」だけではなく、そういうものを検証する精神もあると思うんですが。演劇というのは僕はとても素晴らしいことかなと思うんですが、これが出来たいきさつ、例えば無理矢理つくらせたとかやらせてるとか（笑）、これはとてもいいと思っているんですが、これがどんどん積み上がっていけばお神楽みたいなものになっていくんだろうと思うんですが、この辺のいきさつがあったら聞かせてください。

西野郷土研究会：この水道劇は、現在小学校でやってもらっているんですが、小学 4 年

生の副読本として掲載されているようです。小学4年生に西野水道をくぐって、体験学習で石をこつくということもやってもらっています。それを学校に帰ってからどのように他の小学校に展開していただいているのかはわかりませんが、特に古保利小学校の場合は1年間かけて劇に展開をして、劇の内容も年が変わる毎に内容も若干違います。自分たちの受け取った「感じ」を劇に表現していると、それを表現した後で一人一人が取り組んだ感想をみんなの前で述べて、やっているということです。それから、運動会なんかも地域でやっているんですが、自治会が運営するのではなくて、バックアップはしますが、**中高生が主体で運営**してくれています。

山道さん：誰が発案されたんですか。学校の先生ですか。

西野郷土研究会：いや、我々郷土研究会が地域を活性化していこうということで発案したのと、集落内には福祉委員会という組織がございまして、社会福祉協議会の方で各集落にそのような組織をつくりなさいよ、高齢化社会ですからということでやっておりますが、私どもは昭和53年当時から福祉委員会組織がありまして、集落のことは集落で、というのは遡れば**170年前から自分たちのことは自分たちでやろうと**、170年前に村人が田畑を全部売って、自分たちは木の根、草の根を食べて石夫さんの賃金にしたといういきさつがございまして、**その精神をつなぐ、今よく言われる「絆」が自然のうちに定着しているというのが実態**ではなかろうかと。先ほど紹介されましたが、子どもたちが独居老人のおうちへ声かけ、朝は「おはよう」と学校に行く前に声かけします。それから「ゴミない？」ということでゴミ出しのお手伝いなんかもやっています。

片寄さん：素晴らしいお話で、**住民土木事業**というのか。「青の洞門」の話は全国にくつつかあると思います。そういうのを集める**“全国「青の洞門」サミット”**が（笑）**やれそうな気がしますね**。もう一つは風船、すごいですね。フットと思ったのですが、福井の原発密集地で風船を上げてみたら、どこへ行くのか、恐ろしいところはどの辺か見えてきますね。

西野郷土研究会：ちょっと付け加えさせていただきますが、この土に還る風船も、静岡と交流していますので、そういうものが静岡にないかと探したら、たまたま静岡にありました。ヘリウムガスも静岡から取り寄せまして活動してお



ります。

福廣さん：前から交流があった訳なんですか。風船が降りて交流が始まったのかと思ったんですが。

西野郷土研究会：いや、年度が違うんです。去年は長野県の大井川で船の転覆事故がありました。長野県の大井川地区というところがバスで私どもの方へ来ていただき、交流させていただいてます。今度は我々も行こうとしておりますし、近くの岐阜県からも私どもも行きますし、向こうからも私どもの方へ何度となく来ていただいております。このような交流が続いております。

福廣さん：ありがとうございます。

嘉田さん：一言いいですか。皇太子殿下をどこにご案内しようかという時に、やっぱりこういうところがいいと、そして一昨年5月の予定が10月になってしまいましたが、本当に喜んでくださって。みなさんに今日ここで知っていただいて、いっそ「青の洞門」サミットをここでやっていただけたらいいなと思います。ありがとうございました。お世話になりました。

西野郷土研究会：是非、また来てください。

福廣さん：どうも、ありがとうございました。次は「琵琶湖自然環境ネットワーク」の皆さん、よろしくお願いします。

琵琶湖自然環境ネットワーク：まず、プロジェクトの話ですが、琵琶湖よしよしプロジェクトという名前です。実は、この名前をつけたのは、我々の会員にブライアンウィリアムズという日本画家がおりまして、彼がつけました。ちなみに、この「FLB 琵琶湖自然環境ネットワーク」と書いてありますが、「FLB」というのは Friends of Lake Biwa の略で、これもブライアンの命名です。

琵琶湖の現象でちょっと困った問題、例えばヨシ帯や砂浜の喪失、それから人工湖岸化、湖岸浸食、外来魚・外来植物の増加、水上バイクの暴走、魚の上れない川といった問題がありますが、今日はよしよしプロジェクトということで、ヨシの話させていただきます。

これは、比良の山麓、湖西の和邇浜のところにあるヨシ帯なんです。琵琶湖全体から見ますと、たいした規模のヨシ帯ではないのですが、私はヨシ群落保全条例の制定の時に、県の委託で全湖のヨシ帯の分布調査をしました。これは砂浜が卓越す

る湖西の中では特殊的に立地しているヨシ帯なので、規模は小さいのですがとても可愛らしかったので、思い入れがありました。そこで、我々なりのやり方で何か出来ないかということで、調査箇所としてここを選びました。

ヨシの減少にはいろいろな原因が複合しているんですが、私どもが特に危惧しているのが、春先の水位上昇です。これは中主町の浜欠けの状態なんですけど、ヨシには水と栄養分と酸素が必要です。特に酸素が一番必要になるのは芽を出す春先の時期なんですけど、その時期に水位が上がってしまいますと、なかなか水の底から茎が地上に出てくるまでに時間がかかって、途中でへたってしまいます。そこで、春先の波の強さというのを受けて、どんどん浅くなっていくという状態を防がなければなりません。行政の方でもいろいろと取り組んでいただいています。これは、行政によるヨシの造成なんですけど、ご覧いただいたようにかなり大きな人工構造物を必要としますし、必然的に浅い場所を造るわけですから、大量の浚渫土によってその場所にいた生物が死滅することになります。このようにヨシ地が出来上がったんですけど、一つはヨシが回復したように見えますが、そこにもともといた生物を死滅させてしまったという側面もあります。そういった問題を解決できないかということで取り組んでいます。

我々が考えたのは、水辺の自然を壊さない、それから何をしても自然の素材を使う、それから山でもいろいろな課題があるので里山と湖をつなぐということを考えました。それからもう一つ、基本的に私たちの取組はヨシを植えることではなくて、もともとあったヨシ帯をもとどおりに自然の力で、治癒力みたいなもので増やすのをお手伝いするというやり方です。

これは施工前、プロジェクトを始める前の段階で、ご覧いただいたように湖面が露出してますけど、かなり礫がゴロゴロした状態です。ヨシというのはある程度酸素と同時に栄養分を必要としますから、ある程度細かい砂が必要なんです。



だいたい、74 ミクロン以下のシルト分が 10 パーセントほどないといけない。そうすると、何とか波を止めることによって砂を呼び込んで、もとどおりヨシがいっぱい出来る、勢いを取り戻すことが出来るということで取り組みました。波止めの材料なんですけど、出来るだけ自然のものを使いたいということで、これは

比良山麓の里山から雑木を切り出して粗朶（そだ）をこのように造ります。そして粗朶を積み上げて波止めを造ります。これが波止めが完成した形なんですけど、そこに補助的に、もともとこの時期にヨシが一時期なくなっていた南側の端なんですけど、そこに地元産のヨシを植え込みました。一部は既存の群落から間引きしましたし、一部は既存の群落から種を取って、それをほ場で育てて、小さな種木をつくって植えるという形ですすめました。

これが仕上がった状態なんですけど、松の木の下に色の濃い部分があるんですけど、その部分が実は一時期、プロジェクトを始める段階では真ん中の部分が全く欠けていたんですけど、両側から既存の群落がせり出してきて、分かれていた二つの群落が真ん中の部分が回復してつながったということです。南側の新しく植えたところにも右下の写真のようになんかなり回復してきているということです。これが今年の7月の状態なんですけど、植えた部分にも広がってくれました。

「山と湖のつながりから里山と水辺の復活を！！」ということで、このようなプロジェクトを進めております。粗朶の組んだところは、結構台風なんかで流される場合が多くて、2年に1回ぐらいは粗朶を足さなくてはいけないのですが、そのようにして活動を続けております。以上です。

福廣さん：よしよしプロジェクト、ありがとうございました。質問とか、ご意見とか。山崎さん、よろしくお願いします。

山崎さん：私は、どっちかというところ止水の方しか知らないんですけど、波が大変影響を与えるということで、ああして造られても保存というか、保全というか、ただただめになっちゃうのではないかと心配があるんですけど、そのあたりは大丈夫なんでしょうか。

琵琶湖自然環境ネットワーク：先ほど申し上げたとおり、結構大きな波が来ますと、どうしてこんな隙間から流れていくんだろうと言うぐらい、粗朶が流出しちゃうんです。あまり管理がルーズですと、漁民の方にご迷惑をかけたりの場合があるので、ネットを張ったりとかいろんな補助手段をして頑張っていますが、それでもやせていくものですから、一定程度で補充していくような努力を続けています。

山崎さん：根本的な土の回復が必要だということで理解をすればよろしいですか。

琵琶湖自然環境ネットワーク：そういう形で、自然の砂が今まで侵食される一方だったと

ころが、消波堤を造ることによって流れが、波の作用が変わってきて、逆に消波堤の内側が浅くなって、適度な粒の大きさの砂が溜まるようになってくれたということです。だから、ヨシがまた広がってくれたということなんです。それから、また、ヨシの生える場所を自然の力で勝手に出来てくれるのを手伝ったということです。ですから、**自然の再生力を手助けするというプロジェクト**です。

山崎さん：素晴らしいと思います。そこまでくれば大丈夫と思ってよろしいですか。

琵琶湖自然環境ネットワーク：いえいえ。まだ、ごく一部です。このプロジェクトに関わっている人間にもいろいろな解釈があるんですが、私は今は植えることよりも、湖岸緑地と言って、湖岸堤を全面に埋め立てて、都市公園になっているところが非常に多いです。それで、あの一부를利用頻度の少ないところはもともとの湿地帯に戻すような取組を、是非行政にはお願いしたいと思いますし、これは亡くなられた吉良先生から私への遺言といえますか、「お前、がんばれよ」と言われましたので、頑張っていきたいと思います。

山道さん：ヨシの再生はあちこちで、国の公共事業としてもやっていると思うんですが、試行的なことも含めていくつかやっておられると思うんですけど、科学的なデータをとっておられるのでしょうか。例えば、ポットの植栽をするだとか、あるいは波を除ける方法だとか、他の人たちに参考となるようなことがあると思うので、失敗も成功も含めて記録があれば是非公表していただきたいと思って。

琵琶湖自然環境ネットワーク：どのような調査や記録が一番いいのかというところがまず難しくて。その時々にはいろいろなアイデアが浮かぶのですが、同じやり方でやるというのがきちんと出来ていないので、なかなかこれは難しいです。群落の大きさに分けて2回ほどやったんですが、波のあるところで作業をしますなので、精度の問題がなかなかうまくいきませんし、どこまで広がったか、密度をどうやって捉えるかという問題もありまして、ヨシの調査というのはなかなか難しいと思います。正直なところ。

福廣さん：菊池さんは、アサザ基金でそれをご専門でやられたりとか。

菊池さん：振られてびっくりしているんですけど。霞ヶ浦で同様の事業を私もスタッフとして見させていただいたんですけど、粗朶が上に



上がっている部分で波を受けて流出しやすくなるという結果が出てるということで、構造的にそこを変えるだけでも、おそらく粗朶の流出がかなり防げるのではないかという意見もあつたりします。ただ、霞ヶ浦では今、粗朶で波を止めるというのは現状でおそらく新しい事業が行われていないのですが、さっきお話があつたように、湖と山をつないでいくということで、いろいろな意味でいい形で循環すれば、すごくいい可能性を持っている事だと思います。先ほどデータの取り方が難しいというのは霞ヶ浦でも出ていたんですが、逆にこういうご時世なので、「このデータをとれる方がどなたかいらっしゃいませんか？」と声をかけて、いろいろな方の力を合わせながら、いい形で定着するような方法を、是非みなさんで考えていただきたいなと思います。

福廣さん：科学する力とか、自然治癒力という報告だったと思いますがよろしいでしょうか。ありがとうございました。

次は「白鳥川の景観を良くする会」の皆さん、よろしくお願いします。

白鳥川の景観を良くする会：白鳥川の景観を良くする会は、市民の任意団体でございます。本当に一からの立ち上げでございます。今年でまる6年の活動をさせていただきました。2月からは7年目を迎えさせていただきます。それではパネルを通してご紹介をさせていただきます。

白鳥川ということで、発足の経過ですが、全体的に雑草なりポイ捨てなり、景観を損ねる状況でございました。桜の木の害虫や病気などの問題もありました。このようなことから、何か地元貢献をしたいという思いで、会を発足させていただきました。

活動目的として、景観向上と流域が市民の憩いの場になればいいなという思いで、基本活動として流域の環境整備と植栽で景観向上していこうと、JRから琵琶湖湖岸まで約5km あるんですが、その間の除草やゴミ拾いなどを基本活動として月に2回、川ということで「水」曜日の活動としておりまして、第一水曜日と第三水曜日を活動しております。重点取組として、一点目は地元の小学校の子どもさんにも川に入って生き物調査などが出来るような体験学習の支援、それから二点目は桜ボンボリ、さらには鯉のぼりの川渡し、こういう夢のあるまちづくりに貢献したいなと、正しい楽しい話題で市民が白鳥川の景観に興味や関心を持ってもらおうとい

うことで、市民が元気になるよう貢献できればなど。三点目は、5kmの桜並木が名勝になるような、桜の木は近江八幡市の木でもあります、日本の木でもあります、日本人の心を大事にして、将来の大きな観光資源にしていければということで、特にこの三つを重点取組で進めさせていただいています。このように四月になれば桜が満開になり、きれいでございます。

2006年の2月からJRから湖岸まで5kmの区間を進めておりまして、2007年からは藤間川でも清掃活動をさせていただいています。現在72名で年齢構成はこのようになっております。平均年齢が67.5歳ということでございます。基本活動でございますが、1日の始まりはこのように、朝準備をして、朝礼からラジオ体操、それから湖岸まで、毎回集合場所は違います。移動しながら、この5kmの道を活動させていただいています。草刈り機がありますので、「安全」ということを第一に考えております。3.11から、我々も「安全」ということで、安全保安員ということで、二人が作業現場を見て歩くようにしています。背丈を越えるような雑草や、自転車道の横を作業しております。場所によっては野焼きで処理をする場合もございます。手で作業をする場合もございます。

ゴミが非常に多く散見される、大きなゴミから小さなゴミまでたくさんあります。1回平均85キロのゴミが取れます。

それから、重点活動として、一つめの地元小学校の環境・体験学習の支援を2年前からさせていただいており、昨年もさせていただきましたが、実際に川に入って生き物調査をする。こういうことは大きくなって思い出になって環境取組につながっていくと思います。新聞も発行しております。

次に二点目の桜ボンボリですが、前に展示しておりますが、話題をつくって、桜のシーズンには、これはみんなメンバーの手作りです。全部手作りで、とりあえず今回は50個つくって、5m毎に展示しようということで250mの間



を、電気を灯して、このように進めております。これは、今図書館で展示して、「ガンバレ日本！ガンバレ八幡！」ということで紹介させていただいています。鯉のぼりの川渡しも、近くに医療センターがございます、入院患者の方が元気になれ

ばという思いも含めて、桜ボンボリとあわせて推進・検討しております。

名勝「5kmの桜並木」については、支柱から植栽も含めて、今現在大きな桜は全部で660本ありますが、全部に管理ナンバーをつけまして管理をしております。調査の記録・台帳をつくって桜診断、不良剪定の修復、それからテングス病、大変怖い病気で伝染していきます、こういうものを除去して、殺虫剤の噴霧をしております。

その他の活動として、植栽、休憩用のベンチの設置なども進めております。懇親の場、親睦の場も春や年末に設けております。このような内容はブログで発信しており、「**景観隊484**」とやってもらえれば見られます。「484」は、「し」賀県の「4」、「八」幡の「8」、「し」ら鳥の「4」、「484」でみなさん見てください。詳しい内容が見ていただけます。

6年間の活動ですが、計137回、延べ参加者数が4,128名ということで、1回当たり30名強、ゴミ回収が11.6トン、平均約85キロ、除草距離は1回当たり約500m、桜の木を360本植樹させていただきました。

6年間の活動のグラフです。青いグラフで示しておりますが、1年間は12ヶ月、月2回活動をするると年間24回の活動となります。毎年活動日は晴天ということで、雨が降ると休めるのですが（笑）、雨の日がないということです。今年度は2月、3月が残っておりますが、台風の時に1回雨が降りましたので、23回となる予定です。除草距離やゴミ回収量もグラフで示しておりますが、3年前からゴミ回収量がぐっと減りまして、私どもの活動がゴミの発生抑制につながっているのではないかと考えています。平成23年はゴミの回収量が増えています。これは桜の木の剪定くずがゴミとして出るようになったということです。この桜の剪定くずのリサイクルを今考えておりまして、しいたけなどの菌を打って栽培しようということでテストを始めています。

このようなことで、私どもそれぞれみんな**定年退職した者が多い**のですが、**元気で少しでも地域に貢献**させていただければと、スタートの時にみんな集合写真を撮らせていただいています。

今後の課題として、三つございます。やはり**若手参加の増強**ということで**後継者づくり**、それから**活動経費の安定確保**、それとだんだん高齢化になっていきますので**機械化による作業の軽度化**にも取り組んでいきたいなと思います。どうもご静聴

ありがとうございました。

福廣さん：ありがとうございました。あれだけ、キチッとデータを残されているというのは、外部発信の時の道具にもものすごくいいですね。さて、朴さん。

朴さん：素晴らしい！ただ単に、「暇だから何かやろうか」(笑)という事だけじゃなく、科学的には少し足りない部分があるんですけど、データをとって、しかもブログで発信をしていくと。さっき私は「紙もいいんだけど、デジタル時代にアナログだなぁ」と思ったりもしていたんですが、またブログで発信をしていくということを非常にいいなと思うんですが、これだけ活気を持ってやるにはどういうやり方で行うのかを教えてくださいたいですね。みんながワーと行くのか、分担をしてやっていくのか、やり方を教えてくださいたいのが一つ。

それから、桜ボンボリ。韓国人の私が見ても素晴らしいので、一つ作るのにどれぐらい(経費が)かかるのか(笑)ということと、これを若い人たちといっしょに作ってやって、もうちょっとたくさん出来るんじゃないかなという二点を教えてくださいたいと思います。



白鳥川の景観を良くする会：一つは、これだけの作業をどのように進めているのかという事なんですけど、最初の一年目は私が全て担当してやらさせていただきました。もう首が回らなくなりました。朝一番からお茶を沸かして、30名から40名集まってくるので、紙コップ1杯にしても2リットルのペットボトルが最低3本ぐらいいるわけです。そういうことを考えていくと、これはとてもじゃないがあかんなということで、一応メンバーに一人一役担当してほしいということで、仕事の内容を今7つ作っております。一つは作業の準備班。草刈り機が全部で25台あります。それから、自転車道のゴミを吹き飛ばすフロアや熊手、ほうきとか鎌、ゴミを入れるビニール袋とかを全部入れると、軽トラ2台が山盛りになります。そうすると、一人ではたちうち出来ませんので、作業準備班を作っています。それから、市民の憩いの場づくり班というのを作っております。今の鯉のぼりとか、先ほどのボンボリとか、それを考えてどのようにしていけばいいかという班。それから、桜並木づくり班。将来は名勝になる、滋賀県の観光名所になるという思いで頑張ろうじゃな

いかということで、桜並木づくり班。その他に、高齢の人が多いですから水分の補給、夏場は特に水分の補給、9時から12時までの3時間、体にあまり負担にならないように、だいたい途中で休憩していただくのですが、その時のお茶、ちょっと一口甘いもの、お菓子を準備いただく**作業健康班（笑）**を作っています。その方も毎回お茶を沸かして持ってきてもらっています。近くのスーパーに行って、一人当たり70円の予算になっております。**お茶と一口のお菓子を70円の予算でやるため、スーパーを駆け回って安くておいしいものを用意**してもらっています。それから、**プログ班**。あとは、**会計、事務局班**ということで、年間で、草刈り機だけでドラム缶2本分の混合油を使います。それから、軽トラのガソリンとか保険とかいろいろ入れますと、年間約70万円近くが活動だけでかかってしまいます。それをどこから金を持ってくるのか、ここに知事もいらっしゃいますけれど（笑）、ごちゃごちゃ言いませんけれども、補助金が出るとか鉄砲を撃っていかないといけませんので、そういうところに申請をしながら。ただ、一回は通っても、二回目、三回目はなかなか難しいんですね。活動を続けていけば続けていくほど、先細りの見通しになってしまいます。そこをどうクリアするかということで、これからは少し儲かるような、資金を得るようなことを考えていかないとだめだ、ということをやっております。そのようなことで、一人一役ということで班を決めて進めさせていただいています。

それと、このボンボリですが、全部電気が点くようになっています。これは設計図を作って、みなさんに一人一個ずつ作っていただくということでやりました。一番高いのは、1,500円ぐらいかかっております。安くできたものは一つ400円ぐらいで出来ています。これは全部、それぞれの方、技術、木工技術とか、全てパソコンでやっておりますが、パソコン使用の技術とか。これはかなり個人差がありますので、強制は出来ませんが、それぞれ技術を磨いていただいて作っていただいたということで、今まで50個で5m間隔なので250mですが、来年、再来年の3年間で1,700mぐらい作っていかうと考えていて、約350個必要なので、今年は50個、来年は100個、再来年も100個と。なぜ3年後かといいますと、再来年は市が出来て丸60年になります。市制60年で市民祭りも何か提案できたらいいのかなという淡い思いを持っています。実は、今景観隊のメンバーは72名ですけれど、もっと若い人にも関心を持ってもらって入っていただきたいと、さっき

のいろんな発表の中でも自治会の方が大変頑張っておられます。我々も何とか自治会さんと連携してやりたいなと思うんですが、今のところまだまだ一人相撲になっております。とりあえず、地域の電気代は自治会さんにもってもらわないと（笑）という事から接点を持って進めていきたいなと、そんな思いを持っております。先ほど単価を申し上げましたが、人件費は入っておりません。本当の材料費だけです。これからみんなでどういうやり方がいいのか、どういうやり方が単価が少なくてすむかという方向を決めて、来年からは一つの形にして、作っていけるようにしていければと思います。これは市民の方やいろいろな方からアイデアをいただいております、一人一個ずつぐらい市民の方に作ってもらえばどうかとか、小学生に絵を描いてもらえばどうかとか、ご意見をいただいております、みんなに喜んでもらえるような、楽しくなるような形で進めさせていただければと思っています。ちょっと長くなりましたが。

福廣さん：ありがとうございました。

片寄さん：今、密かにブログを開けて見たら、すごいね。ものすごい発信力。最近の年寄りはほっといたらえらいことになるね。（笑）名前は「景観隊48」にしたら。

朴さん：感銘いたしました。みなさんはもうアマチュアを超えて、プロのマネジメントが出来ているということですよ。最後に一つ。資金調達班を作れば完璧です。頑張ってください。よろしくお願いします。

福廣さん：資金調達班と言ったら、知事からNPO寄付減税の話。

嘉田さん：すいません。一級河川は県の河川で、よくここまでやっていただいて、ありがとうございます。ある家電製品の会社に勤めておられて。だから、吉田さん、すごいノウハウを持っていらっしゃるなと思っているんですが。寄付税制、そしてNPO法人が寄付を受けたら、寄付をする方は住民税が減税されるという新しい法律が作れるようになりました。

そしてその許可がこれまで国税庁だったんですけど、県に移ってきます。ですから、この条例を今準備していますので、あと半年ぐらいしたら、是非みなさん、今日を縁にして、白鳥川に寄付をしよう、そして住民税を減税してもらおうという事で、資金を稼いでいただけたらと思います。

白鳥川の景観を良くする会：ありがとうございます。是非ともよろしくお願いします。

福廣さん：ありがとうございました。

次は「蒲生野考現倶楽部」の皆さん、よろしくお願いします。

蒲生野考現倶楽部：こんにちは。蒲生野考現倶楽部、AKR48です（笑）。よろしくお願いします。

蒲生野考現倶楽部では、「たんけん・はっけん・ほっとけん」を合い言葉に、水辺での遊びを通して、川を守る活動をしています。今日は、私たちが参加した「わくわく探検活動」について発表します。

お米作り体験では、5月の田植えや7月の手押し車での草刈り、そして10月には稲刈り、はさかけ、千歯こきと足踏み脱穀機を使って脱穀をしました。私たちがお米作りをしているような、環境に優しい無農薬の田んぼが広がっていったら、生き物も私たちも元気に育っていくことが出来ると思います。

かいどり大作戦では、佐久良川でアユやヌマエビ、クサガメなどたくさんの生き物を捕まえて、とても楽しかったです。

モニタリングサイト 1000 里地調査では、田んぼや水路、川を取り巻く環境について、植物・野鳥・ホタル・水環境の調査をし、自然の移り変わりを調べています。野鳥調査の時、アオサギが飛び立った跡にはブルーグレーの大き



くてきれいな羽が落ちていました。田植えの直会や蛍ほのぼのコンサート、川原ふれあいデーでは、私たちが活動している地域の方々に体験報告をしたり、一緒にグランドゴルフをしたりして、交流を深めました。

また、9月には日野川探検をしました。日野川の源流から琵琶湖まで水辺の生き物観察をしながら、川下りをしました。源流や上流、中流、下流の生き物の違いだけでなく、水の冷たさや流れの速さ、川の広さ、川底の感触の違いをからだ全体で感じる事が出来ました。

今年度は、**ほっとけん活動**として、琵琶湖淀川水系において清掃活動と外来魚駆除を行いました。佐久良川では魚釣りや水質調査の時に、川の中や川原の掃除をしました。琵琶湖では外来魚駆除釣り大会に参加して、ブルーギルやブラックバスを釣りました。

桂川では、藪の中のゴミを拾っていると、カヤネズミの巣を見つけました。木津

川ではお菓子の袋などがたくさん捨てられていました。また、ジャンボタニシ駆除を行いました。ピンク色の卵塊がとても気持ち悪かったです。淀川ではバスボートや洗剤、花火のゴミがいっぱいありました。猪名川では、バイクや自転車などがたくさん捨てられていて、びっくりしました。外来植物駆除では、私たちより背の高いオオブタクサを引き抜くのが大変でした。大和川では扇風機や灯油ストーブ、カーペットなどの家電製品が多く捨てられていました。鴨川クリーンウォークの時、たばこの吸い殻をウサギが食べていたので心配になりました。心ない人のポイ捨てが生き物を苦しめることになって悲しいです。また、人間によって持ち込まれたブラックバスやブルーギルなどの外来魚には罪がないのに、駆除をするのは心が痛みます。でも、そのままにして放っておくと、在来魚が外来魚に食べられて減ってきたりするなど、問題が大きくなるばかりです。

ゴミの問題と同じで、私たち人間が引き起こした問題は私たちで解決しなければなりません。

これからも「たんけんだ きらきら光る 水辺へと はっけんだ 川のいのちの たから物 ほっとけん 水辺の未来は 私が守る」で、頑張ります。ありがとうございました。

福廣さん：すごいですね。これ、コメントする人も大変やな（笑）。さすが、遊磨さん。

遊磨さん：蒲生野考現倶楽部とは、結構長い間お知り合いにさせていただいているんですが、**ここまで世代交代が進んでいるとは！**（笑）。ちょっとびっくりしました。しかも、蒲生の付近だけではなくて、あっちこっちに行っておられて、新聞も何百号も出てて、本当にびっくりしました。モニタリングサイトも、これは環境省の仕事ですよ。ここまでやってるかという事で、こんな手広くやられているのかとびっくりしたんですが。あえて聞きたいのですが、新聞は何号まで出す予定ですか。

蒲生野考現倶楽部：出来たら、千号までいきたいです。（オーー！）

山道さん：いいですか。この新聞のことをもう少し聞きたいのですが、すごく良くできてるなと思っているんですが。「**ぽぽっぽ**」というのは、聞き忘れたかもわからないんですが、何か意味があるのかどうかという事と、新聞を作って例えばインターネットかなんかで流しておられるのかどうか。みんな、日記みたいにおうちに置いてあるだけ？

蒲生野考現倶楽部：はい。

山道さん：みんなは見れないんだ。じゃあ。

蒲生野考現倶楽部：はい。

山道さん：じゃあ、「ぽぽっぽ」の意味を教えてください。

蒲生野考現倶楽部：名前の「果歩」と、「莉歩」と「歩佳」の「歩」っていう字を並べて、「ぽぽっぽ」とつけました。

山道さん：なるほど。よくわかりました。ありがとう。

福廣さん：「親御さんの顔が見たい」というような、知事から話がありますが。

山道さん：親御さんも「歩」という字があるんですか。お母さんとかお父さんに。

蒲生野考現倶楽部：ありません。

福廣さん：質問、コメントやなしに、最大の拍手でそれに替わらせてもらいたいと思います。ありがとうございました。

(各団体の発表が終わり、休憩後)

福廣さん 再開させていただきます。会場をどんなことがあっても4時45分に出なあかんというので、それで当初の話では全体選考で一回選んで議論して、もう一回選ぶという風なことを考えてたんですけど、到底無理ということで、ぐっと省略して。

(スタッフに) 全員表彰というのはあり得ない？

スタッフ 全員表彰ですか？

福廣さん 全員グランプリというのは？

スタッフ 全員グランプリ？ 実行委員長に聞いてください！

北井さん やっぱり議論をして選考して行くのが醍醐味かと思いますので、そこからはお好きにしてくださいということで。

福廣さん 醍醐味と時間とのバランスがあったのですが、そういうことですので、そしたら、3票！

あの、2回はやりませんので、ひとり3票入れてください。

山道さん 一回だけで終わり？



福廣さん 一回だけで。時間が無くなってしまってしまうと思いますので、とりあえず3票入れてください。あとはコメントで行こうかと思っています。

<選考中>



スタッフ A-1（「奥村堤」の会）が4票、A-2（環境フォーラム湖東）が0票、A-3（巨木と水源の郷をまもる会）が6票、B-2（琵琶湖河川レンジャー有志）が2票、B-3（勝部自治会）が0票、B-4（山内エコクラブ）が0票、B-5（西野郷土研究会）が2票、C-1（びわ湖自然環境ネットワーク）が1票、C-3（白鳥川の景観を良くする会）が6票、C-6（NPO法人蒲生野考現倶楽部）が3票です。

福廣さん シンプルにいきますと、3つ選ぶんでしたっけ。

スタッフ 基本はですね、グランプリと準グランプリは1団体ずつなのですが、例年、そこに納まっていないという状況です。

福廣さん ということで、本来は2つと言え、数字は僕でもわかるんやけど、ここでこれとこれやと言ってしまうと、あとはコメントをもらうという話もひとつはあるんですが、票を入れ替えたり動かししたりしているよりも、あの、ここに入れた人がどうやというコメントをもらわなあかんでしょうね。そうすると、数字の多い団体の方にさき行ってしまうというのは恐縮なんですけれども、時間の話もあって、言うたら4票と6票の団体に入れた人にコメントをもらうというのでいいですか？それだけやない！どうしても！というところがあればもちろん構いません。あのぉ自分でどこに入れた記憶されてますか？会場(笑)いやいや、あるんですよ！これだけよかったら貼るときにどれもええなあとあって、どれに入れたかなあって忘れることがあるんで、それは入れたひとが悪いんやなくて、みんな横並びで良すぎるからということなんですけれども、覚えてられたら、その僕の方法でよろしいですかね？4票と6票の団体にコ

メントしていただくことということで。今日、グランプリと、準グランプリをどうしても選ばな
あかんという仕事をもらっていますから。まず「奥村堤」の会に入れていただいた4人さんが
おられますが、どうしてもここは俺がしゃべるとかなあかんという方がおられたら。そう言っ
てプレッシャーをかけたら、誰もしゃべってもらえへんかったら、困りますが。はい、大橋さ
ん。すみません。

大橋さん 奥村堤の会にわたしも一票入れさせていただきました。先ほども申しあげましたよう
に、昭和 28 年の大水害から今日まで大きな災害を受けてないといえども、自治会長が「行政
の方から手を入れてもらったままで、ほっとけへん、なんとかせなあかん」と言って、もっぺ
ん歴史を紐解きながら、地域住民で次々に受け継いでいかないといかんという大きな思いと言
うのは、滋賀県全体で取り組んでいかなあかん問題ではないかと思います。私のところでも、
昭和 34 年に死者も出ましたし、その状態でどうあるべきかとやってきているのですけれど、
なかなか、経験した世代と若い世代とで温度差があります。

それをどう子どもたち、孫たちに伝えていくかということが非常に大きなテーマではないかと
思います。私があるシンポジウムに呼ばれたときに、知事の方から「鐘持ってこい！」と言わ
れて、私が 300 年前の半鐘を持ってきて、これで避難の誘導をする証にしてきたと申し上げ
たことがあります。お聞かせいただくと、奥町の自治会では、水害のときはお寺の鐘、火事の
場合は半鐘で合図をするとの取り決めがあるようなんです。滋賀県の場合は、太鼓をたた
いたり、半鐘を叩いたり、釣鐘を叩いたり、いろいろあるんですけど、それはそれでいいと思
います。地域できちっとそのことを踏まえて、口伝えだけではなく、きちっと後世に伝えて頂
けるようお願いをしておきたいなという、期待を込めながら入れさせていただきました。

片寄さん あの地味な活動だったのですが、このときにね「ゴーン」と。あのお、お寺の鐘の音
を録音したやつを流していただいたら完全グランプリやったと思うんですね。惜しかった(笑)

福廣さん “カネ” 持ってこいということで(笑)。大橋さんと片寄先生にお話をいただきました。
あとお二方は？特になかったら、こんどは巨木の会。

朴さん わたしはトチの木に入れました。もう言うことはありません。ただひとつだけヒント
をね、さっきはもったいぶったんですけども、1つだけヒントを。あとは個人的にということ
であります。非暴力、直接行動。木に登るんです！。で、木に登っていれば切ることはでき
ないという提案です。それが秘訣。

福廣さん 木に登ってしまうんですか！すごい。朴先生にグランプリ出そうかな((笑))そんな感じ
がしてきましたけれども。他、入れられた方。はい、山道さん。

山道さん この巨木の話は自然保護の話だけではなくて、歴史とか文化の方の話でもあるだろうと思いますね。それでたぶん**謂れ（いわれ）をやってもらいたいという期待を込めて入れたん**ですが、いろんな謂れがあると思うんですね。それは、単純に神様とかじゃなくして、土砂崩れとか沢崩れが起こりやすい場所だったとか、そういった災害との関係だとか、それからあとは野生動物との関係、そういうものを残すことによって、里にでてきていたずらをしないとかですね、そういうことを是非やってもらいたいと思います。

もう一つ僕が入れたのはヨシの再生の話なんですけれども、本来は行政がやるべきかどうかは別にしても、この手のやつはなかなか動かないんですよ。これからそういう**市民が造る公共事業、市民提案型の公共事業というのを、こういうあたりをサンプルにしてどんどん作って欲しい**なと思います。これはいろんなところに当てはめられますし、今日の事例はほとんどそうだろうと思うのでぜひ工夫をしてもらいたいと思います。

たぶん予算が出てこないような仕事ばかりなんですよ。知恵を働かせればいかなと思います。さっき掃除の話があったけれど、徳島の新町川の中村秀雄さんは、毎回、新町川という町の中の川を掃除しているんです。そうするとゴミがだんだんなくなってくるんです。参加者が不満を持ち始めるんですね。「ゴミがない。ストレスがたまる」と。ということで逆手にとって、**ごみを拾う権利を年間 3,000 円であなたに与えますと、いうので、ゴミ拾いの権利をカード**にしているんです。

福廣さん ようするに、**お金を払ってゴミ拾い**してるんですか？

山道さん そうです！そうそう。それで結構**運営費を賄っている**んです。こういうワークショップはそういう知恵を集めるいい会なので、是非みなさんも頑張ってくださいなと思います。

福廣さん ここだけでもすごい知恵がありますね。日本全国を集めればもっとすごい知恵が出てきますね。韓国の知恵もそうやけど。えっと、巨木と水源の郷を守る会は、他どなたか。はい、遊磨さん。

遊磨さん 川づくりフォーラムであるにも関わらず、一見関係がないようで、しかし大事なポイントだろうということが、一番大きいポイントだと思います。樹木と言うとやれスギだとか、やれブナだとかというのですが、トチの木であるということで非常に興味を引きました。ただ、これは**500 年物のトチ**なので、今、**埋めて 500 年後どうするかという計画をぜひお願いしたい**なと思



ました。で、あとはいろんな問題があると思うのですが、山の所有権というのは非常に難しい問題もあって、歴史をいろいろ引きずっている問題もあるので、そういう諸問題に対する解決の糸口になるのではないかと非常に期待させていただきました。

福廣さん 500年も冗談やないですね。1000年に一ぺんの災害やって言うんやから。500年先は。次は白鳥川に6票入っていますが。

朴さん それは非常に単純で、桜ボンボリで川づくり、ひとづくり、そういうことで1票入れました。

福廣さん こいつで(笑)。はい、山崎先生お願いします。

山崎さん 高槻市で活動しておりまして、見本にしたいというようなすばらしい、人と人とのつながり、継続性とか、企画力とか。で、何よりも一人一役という、参加するひとを大事にする、その、ただ参加するのではなく何か役割があってはじめてやった気がするんやというような、**人を大事にするという運営のしかたに非常に共鳴**しました。

福廣さん 7つの役割があるんですね。白鳥川に関しては以上でよろしいですか。そしたらおひとり一票ずつこの3つの中に入れてください。そしたらグランプリと準グランプリが決まりやすいと思います。もう一回。この3つで。6票、6票、4票なので、一応グランプリひとつ、準グランプリ同票になったら2つで。3つまでは余裕があるんですけど。

朴さん あ、いや、いや、グランプリが必ずひとつである必要はないと思います。グランプリ2団体、準グランプリひとつ。もうひとつ私。C-6（NPO法人蒲生野考現倶楽部）のひと言。ぽっぽっぽ、ぽっぽっぽ。これは特別…

福廣さん 全体の講評はまたあとでやりますので。そういうことでよろしいですかね。序列を決める会ではぜんぜんないから。そしたら、そう、そうですね、会場のみなさん無視したらあかん。時間あせってくるとなんでもやりますんで(笑)。そんなことで、僕の提案で、一応よろしいございますか？それで。

(拍手)

ご承認いただきありがとうございます。そうしますと、事務局、実行委員会はどう思ったかわかりませんが、グランプリをA-3（巨木と水源の郷をまもる会）とC-3（白鳥川の景観を良くする会）、準グランプリをA-1（「奥村堤」）の会とさせていただくと、ここできめさせていただきます。

それで、今、表彰状を書いておりますので、その時間を利用して、先ほど朴さんが言っていたC-6（NPO法人蒲生野考現倶楽部）のことも含めて、いまの3つのことにはできる

だけ触れないで、みなさんに今日の全体のことにとことずつお話いただけたらと思います。

あ、知事は一番最後で。あのどなたからでも。そしたら大橋さんからお願いできますか。今日の全体のこと、このフォーラムの感想も含めて。

大橋さん 全体と言うとですね。本当にみなさんの活動が、日々活躍されていることが浸透してきているんだなと。私も初めからこの会にずっと来ているんですけども、年々、中身の濃いものが出てきているなど、優劣つけ難いなと思っています。この状態で、票が入ってない方もあったんですが、どれを入れたらいいか、悩んで悩んで、



こういう結果になったのではないかと思います。特に特徴だったのは、勝部自治会さんがおっしゃったように、**いわゆる旧住民がやるんじゃなしに新住民がやるんや**と。で、**旧住民もそれに巻き込んでいくんだ**というのが、大きな特徴やなかったかなと思います。グランプリを取られた白鳥川、これも旧住民が入ってないんですよ。新住民のリーダーになられる方は、会社でもリーダーになっておられます。リーダーばかりが寄られて何とか自分らの住んでいるところをなんとかしようと、自身が立ち上がっておられる。その大きな流れが特に出たのではないのかなと感じました。

また、お子さんがおられる山内エコクラブ、蒲生野考現倶楽部は、私は完璧やと思うんです。特に蒲生野考現倶楽部さんは、**家族が絆になって発信**される。お父さん、お母さんも、一生懸命に関わっておられる。きちっと家族の中でできあがっています。山内エコクラブさんも集落に子どもが少ない中で、**子どもたちが中心になって頑張っておられる**。先ほどおじいさんの役割をやられていたお嬢さんがいましたが、あの子が中学校行ったらやれるのかなという思いもあるのですが、あ、もう中学？それはちょっと失礼しました(笑)。ということで、**若い次の世代にきっと繋いでやっていってほしい**なと思いがありました。感想です。よろしく願いします。

山道さん 全国的に地域の方が自主防災をやるうというのが出てきています。こういう発表会にも出てきていますけれども、今日もたくさんあったと思います。中に、水防だとか防災だけの活動ということで発表される方もおられますが、実は**やっぱり水防と環境とはセット**なのかなと思っているんですよね。

草刈するのも別に堤防を強くするためというためだけではなくて、多分そのことによって堤防の土手の植生が変わってくる、**いわゆる里の川**ですかね、里川みたいな。**里山みたいに、人**

が手を入れることによって変わる、そういう自然もあるんだということをあわせてやられると、次の世代にメッセージを伝えやすいかなとちょっと思いました。ぜひまたそういう視点でも頑張っていたいただければと思います。

遊磨さん みなさんすばらしい発表ばかりだったのですが、実は、嘉田知事からの入れ知恵なのかもしれません、川というのは行政が取り上げたエリアと言われています。それがみなさんの力でマイリバー化しているという印象を非常に強くうけました。それこそが一番大事なんだろうと思います。草刈が非常に大変だと思います。例えば山羊を飼うとか、いろんな方法もあるかと思いますが、先ほど白鳥川さんでしたっけ、歩道のところを刈っていて、クズがあると。何でクズがあるのに葛湯にしたりしないんだろうとちょっと思ったりしました。あれね、草刈り機に巻きついて大変なんですよね。いろんなことを工夫されればいいのではないかと思います。

あとひとつ一件だけ、ごめんなさい、僕すごく印象に残っている言葉が今日ありました。実はここに残っていないんです。朝たまたまこの会場に来てですね、NPO法人リバブレ隊だったと思うんですが、えっと、発表されるときに、何も特段ないと、特筆することがないと仰っていました。これほどすばらしい活動はないと逆に僕は思いました。やっぱりアピールすることばかり考えていると歪んだりするかもしれませんが、バランスよくやろうと思うと、毎年毎年おんなじことをしないといけないんだけど、逆にそういうことが非常に大事なんじゃないかと、そのとき強く思いました。以上です。

朴さん 私、今回の第5回目のフォーラムに初めて参加させていただきました。選考員という立場だったんですけども、むしろ、沢山のことを学ばせていただきました。大変感謝しております。精神的な長さが10cmくらい伸びたんじゃないかと思っております(笑)。2月19日に、三重でも同じような会が開催されますけれども、今回みなさんから学んだものを、また更に発展させて、成功させて、輪をひろげていきたいなと思っております。私、今回みなさんの発表を聞いて、3つの文字で繋がるんじゃないかなと、勝手に考えました。ひとつは「命」という言葉、もうひとつが「絆」、もうひとつが「愛」ということだったんじゃないかと思っております。特に一番最後に「ぽぽぽ」新聞の3姉妹のいちばん末っ子が、「私に任せてくれ」という、こういう心強い言葉を、最大の私へのプレゼントとして持って帰りたいと思います。ありがとうございました。

山崎さん 私は皆さんと同じ発表者、活動者という立場で参加させていただきました。

本当にたくさんの方のことを学ばせていただきまして、どちらかというと教えていただくことが

多い会でした。ありがとうございます。私がちょっと心に残っておりますのが、河川レンジャーが「**思いを寄せる**」と言われた言葉です。行政と話をするときには行政に心を寄せて、住民の方と話をするときには住民の方に心を寄せて。それって、**人付き合いの基本**だと思うんですね。自分の立場を、気持ちを柔軟に変えられるというのは本当にすばらしいことで、ああいう方が増えたらますます「川守人（かわもりびと）」というのが定着するんじゃないかなと思います。20万円が実現したらますます発展するんじゃないかなと思います。どうもありがとうございます。

片寄さん 今日個人的に大変うれしいことがございましてね。この会場で50年前に一緒にラグビーをやっていた仲間と出会ったんです。ラグビー仲間ってこんな自然環境とかあんまりやらないんですね。手をあげていますけれど、おおおおお(笑)。うれしかったですね。ラグビー仲間こういう活動をしている人がおったんだと。ほとんど50年ぶりだったのです。出会ったのが。

で、本日の発表で一番興味深かったのは、日本森林再生化学機構株式会社。なんとも不思議な容貌のおじさんが発表されました。彼はですね、孟宗竹を粉末にして、鶏糞に入れると鶏糞の匂いが一拳に消えると。鶏糞による河川の汚染を非常に気にしておられまして、何とか実現したいと。そこで、竹粉をどこでつくってるのかと聞くと、「中国です」と。そこでみんな「ええー」と、こうなったんですけれど(笑)。お聞きしてみると、中国の竹はものすごく太いんだそうです。肉厚がね。で、効率が全然違って、日本で造ると30倍も値段が変わってくる。

「どっちでやりますか？」って、ビジネスマンとして非常にドライにおっしゃっていたんですけれど。実は、日本で実験もしてみたいけれども、どうもならんということで、日本の竹を中国の竹に植え替えないといけないんじゃないかと、おっしゃってましたけれども。その実験の過程をちょっと入れられたら、すごくいいじゃないでしょうか。その思いは、大変すばしくて、しかも**企業家、ビジネスマンが地元の企業として、自主的にやっついこうというこの動き**がね、去年もちょっとひとつ似たような事例がありました。今年もひとつだけだったのがちょっと残念だったのですが、出して頂いてありがとうございました。お礼をいいたいです。

あと、私は今兵庫県に住んでいるのですが、兵庫県の県の職員の方が、事例発表をしてくれました。去年の全国のいい川いい川づくりWGで入賞されたわけですが、彼がどうとやれる背景にはですね、武庫川にダム計画が渓谷にあったんです。それに対して住民の方々から異議が出て、そして大変な住民活動、市民活動が起こり、そしてそれを受けた武庫川流域委員会というのができて、長年本当に真剣に、数百回議論を重ねて、とうとうダムをやめて、そし

てどうやって都市の安全を守るかという結論に達したわけですね。そのことによって、優秀な技術屋さんがダムから解放されたんですね。本当に川をどうしたらいいかということ自分の本当の仕事としてやれるようになった。それまで実は、ダムなんていらないと私は考えてまして、ダムをつくらない立場で行政とも交渉したんですね。そのときの技術屋さんの顔がみんな



死んでいたんですよ。本当に。本心は違うんだけど、行政の命令として、答弁に立っておられた。本当に死んだ顔をされていた。

個人的に話をしてみるとすごく優秀なひとがたくさんいるんだけど、自分の能力を發揮できない。この状況を解放させてあげられたらいいなあと思っておりましてけれども、やっとダムのくびきが取れて、そして、あんな優秀な若い技術者がここで堂々と発表できるようになった。こういうことだったと思うんですね。

ダムの問題には二面性がある、ダムがどうしても必要な場合もちろんあります。だけど大半のものはいらぬダムが多くなっています。そういう意味では、嘉田さんが滋賀県でご苦労なさって、いくつか止められました。実は、東北の大震災で、津波が来た時にどうするか、「津波てんでんこ」という言葉を初めて聞きました。てんでに逃げるんだと。親も兄弟も友達もみなほって逃げる。これが津波が来た時の防災の基本だと、そんなことがあったんだと今回初めて知ったんですけど、それには、ひとりひとりの防災力を強くしていかないといけないんです。今日本人は非常に弱くなっています。いざ災害のとき、私も現場にいたんですけど、本当におろおろおろおろして使い物にならない人がいっぱいおるんですよ。泣くばかりとかですね。そんなことしている暇があったら、ひとつでも前向きなことをやれば助かる人も助かると思うんですけど、

どうしていいかわからないとこんな状況になるんですね。子どもたちにもそういう子が結構増えているんです。しかし、役に立つ子どももいるんです。そういう子たちは野外で子どもの時から鍛えられているんです。キャンプというのはまさに防災訓練ですよ。ところがですね。公共のキャンプ場がどんどん全国的になくなっていきます。大阪府にありました能勢野外活動センター、日本最大のものが閉鎖してなくなりました。その他もどんどんどんどん潰れていってまします。岐阜県は、公共のキャンプ場がゼロになった。滋賀県でもずいぶんつぶれている。そういう中で、ダム造る暇があったらキャンプ場をつくろうと言いたい。

ま、それは極端な言い方ですけど、本当に楽しくいきいきと子どもたちがやれるような。なぜ潰れていくかという、ひとつはそこで事故が起こると行政責任を問われてしまうんです。そしてお金を全然かけてない。赤字の施設だから、お金をかけられない。そして指定管理者にまかせ、安いお金でつまらない運営しかしない。行ってもだんだん面白くなくなる。施設も老朽化する。じり貧になっているんですよ。だから、そういうところにこそ防災のお金を投じて、そしてひとりひとりが元気なるような、いざというときにでんでも生きていけるぞという、そういうことをしないとイケない。そういう意味で、川で、みなさんが子どもたちをいろいろ連れて行って、一緒に川で活動されているというのが、まさにその活動なんですよ。もちろんキャンプ場も大事ですけど、川の活動、みなさんのやっておられる活動はものすごく大事だと思います。これが次の世代を育てていくと思いますので、ぜひ、子どもたちを巻き込んでいただきたい。ただし、これにはテクニックがいます。私の経験では青年の中にも百人にひとりぐらいほっといても子どもがついていく青年がいるんですよ。こんなやつをつまらないサラリーマンにしておく必要性は絶対ないわけですよ。そういう人の周りにはなんか子どもが集まってるんですよ。そのひとに聞いてみると僕は子どもが大嫌いだっていうんですよ。嫌いなのに子どもがついていく。そういう人の才能を見出して仲間に入れてください。そして、発展されることをお祈りします。失礼します。

グランプリ 「白鳥川の景観を良くする会」 ★★★

賞状、グランプリ、「STG48 知恵と分業で白鳥川が美しいで賞」。あなたは第5回淡海の川づくりフォーラムにおいて「川や水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」をめざす仲間たちのモデルとなる活動を発表されました。その熱意と成果を称えここに賞します。平成24年1月28日、滋賀県知事 嘉田由紀子。



グランプリ 「巨木と水源の郷をまもる会」 ★★★

賞状、グランプリ、「水源を守るトチノキは“バッチ”と“バチ”でこれからも守りま賞」。巨木と水源の郷をまもる会様。あなたは第5回淡海の川づくりフォーラムにおいて「川や水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」をめざす仲間たちのモデルとなる活動を発表されました。その熱意と成果を称えここに賞します。平成24年1月28日、滋賀県知事 嘉田由紀子。



準グランプリ 「奥村堤の会」 ★★

賞状、準グランプリ、「愛知川のおやじの熱い取り組みが地域の経験を次世代に伝えるで賞」。「奥村堤」の会様。あなたは第5回淡海の川づくりフォーラムにおいて「川や水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」をめざす仲間たちに希望を与える活動を発表されました。その熱意と成果を称えここに賞します。平成24年1月28日、滋賀県知事 嘉田由紀子。



河港協会賞 「勝部自治会」★

賞状、滋賀県河港協会賞、勝部自治会様。
あなたは第5回淡海の川づくりフォーラムにおいて日々取り組まれている活動が「川や水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」を育むうえでおいに貢献するものと認められましたので賞します。平成 24 年 1 月 28 日、滋賀県河港協会会長 家森茂樹。(代読)



河港協会賞 「西野郷土研究会」★

賞状、滋賀県河港協会賞、西野郷土研究会様。あなたは第5回淡海の川づくりフォーラムにおいて日々取り組まれている活動が「川や水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」を育むうえでおいに貢献するものと認められましたので賞します。平成 24 年 1 月 28 日、滋賀県河港協会会長 家森茂樹。(代読)



河港協会賞 「NPO法人 瀬田川リバプレ隊」★

賞状、滋賀県河港協会賞、NPO法人瀬田川リバプレ隊様。あなたは第5回淡海の川づくりフォーラムにおいて日々取り組まれている活動が「川や水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」を育むうえでおいに貢献するものと認められましたので賞します。平成 24 年 1 月 28 日、滋賀県河港協会会長 家森茂樹。(代読)



福廣総合コーディネーターの講評

この仕事をさしていただいて2年目なんですが、3時間に1回しかトイレ休憩せーへんような下手な進行で、誠に申し訳ありません。選考委員の方と何より参加の皆様のお陰で、無事の終了の時間に持ってこられたんじゃないかと思っております。

様々の視点、本当にあったと思います。この視点、滋賀県下にばらまいたら大きな会社になるやろな。今のは駄洒落ですが、川づくりフォーラム、僕やっぱり山づくりと共にあると思いました。それとやっぱり、小さな単位でふるさとづくりなんじゃないかなと思って。

さらに言うなら、ここの会は“ふるさとの見本市”去年もちょっとそんなこと言うたんですが、見本市になればふるさとの産品の見本市になればいいなって。活動は皆さんの現地でしか出来ない産品であるし、もう1つ物産、知事の名刺にもいっぱいありますように、今日は川端の水だけでしたけども、来年からは物産市といっしょにならへんかなあっていうような事を思っておるんですが、川づくり山づくり見本市会場みたいになったらいいなあというのが僕の感想でした。



嘉田知事より

16 団体の皆さんがご参加いただきました。今年は 5 回目なんですけど、毎年と違うなと思いました。それは 3.11 を経たこの日本で改めて、最大列島なんだと、自然災害列島なんだということをお私たちが気づかされました。そしてこの自然災害が、残念ながら原子力発電所の事故というような文明災害までもたらしてしまう。その中で今日皆さんが発表していただいたことは、**命、絆、愛、そして現場力**。そうなんです。片寄さんがいつもおっしゃっていました「**しのぎの防災**」、「**しのぎの減災**」、というのはひとりずつがその場その場で判断ができる。そしてその場その場でまずは自分の命をまもり、家族と地域を守る。結果としてみんなお互いに守り合える、そういう社会づくりだろうと思います。



ここ数十年、行政は手を出し過ぎました。お金、技術。もちろん、大事な大事な経済成長の中で、行政が何もかも 100% できたらそれに越したことはないんですけども、今回どうだったでしょう。あの津波の時に行政は何ができたでしょう。そして 12 号、15 号台風、行政は何ができたのでしょうか。ということ考えると今日のこの第 5 回目の川づくりフォーラムは一層、わたくしたちの一人ずつがお互いに守り合うと言う仕組み方法、それをそれぞれが獲得できたのではないのでしょうか。改めて知事としても大変うれしく思います。

そして進化しました。何よりも時間が深く進化しました。トチの木 400 年といったらお江（おごう）の時代です。そして災害というのは 1000 年、2000 年。1000 年ぶりにというようなそんな津波も来る。西岸断層帯、いつくるかわからない。時間を深堀することによって、わたくしたちは、天保の西野水道、昭和 28 の水害、それを私たちの身に着けることができる。そして**横のつながり。広がり**。隠れ行政マンたくさんいます。そして、**本当に関西全体が繋がったな**という思いがいたします。

わたくしは実は関西広域連合の出先機関改革、つまり近畿地方整備局、一兆円持っているその予算をちゃんと地元の住民がみんな監視が出来て、活用できるようにしようと、明治以来の初めての中央集権から地域主権の最先端に立っております。

そのときにこうやってみなさんが近畿全体で繋がっているんだというこのおひとりずつのお力が国に対しても野田首相に対する働きかけにもなります。そして幸い川

端総務大臣もこの滋賀県から出て一生懸命、今こそ地域主権時代だと頑張っていたいております。それから前田国土交通大臣、奈良県からです。こういう政治の仕組みを今こそ変える。それは、みなさんの今日のようなお一人おひとりの発表、その背景に365日の活動があるのだということ、改めて力をいただきました。

時間を事務局が大変気にしております。最後にひとこと。実行委員会なんです。今日のこの会議。ゼロ予算で。まして商品までそれぞれが出していただくといういままでの行政にはない心のやり取りをできるこの実行委員会。

山道さんどうでしょうか。全国の大会もまた大津に持ってきていただくということで、はい、お考えいただいているようですので、今年はもしかしたら全国の大会をまたここでやっていただけるのではないかと期待をいたしまして、お礼のあいさつとさせていただきます。どうも本日はありがとうございました。

5) 公開討論会 選考員のみなさん

テーブル **A**

テーブル・コーディネーター

小丸 和恵（こまる かずえ）さん／NPO法人子どもと川とまちのフォーラム 理事



大阪府生まれ、愛媛県と京都府育ち。昨年夏、びわ湖の近くに越してきた。

『子どもが育つ流域の再生』のためには、世代や立場、分野の壁を越えて人々が信頼関係のもと、つながることが大切」との思いから、ライフワークとしての活動を続けて、十数年。

活動のフィールドを川から森に広げ、「あるもん」を利用したモノづくりと流通をめざして「arumonde」事業の準備も進めている。

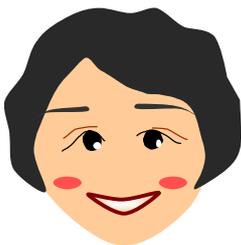
選考員

齒黒 恵子（はぐろ けいこ）さん／NPO法人 蒲生野考現倶楽部

高度経済成長に伴い、物の豊かさ、便利さと引き換えに、豊かな自然や人情など失ったがものが数多くあることに気づき、身近な流域で「生態系の調査や保全活動」「自然再生への挑戦」「人と自然・人と人とのつながりを取り戻そうとする活動」などを進めてきた。それぞれの活動を通じて得られた共通の事柄は新しい発見と仲間が出来、次世代の子どもたちにも伝えることが大切と考えている。



荒井 紀子（あらい のりこ）さん／ホテルの学校 代表



子どもたちと「ホテルの学校」をはじめ、10周年。子どもたちが生きものたちや川のことを考えてくれる人に成長してくれているのではと期待している。生きものたちとの出会い、地域との関わり方を子ども時代に体験することのすばらしさを改めて感じている。

山、川、田んぼ、琵琶湖、生きものたち・・・、網の目のようなそのつながりを考えると、わくわくすると同時に、人が今、失ってはならないもの、守らなくてはならないことが少しずつ見えてきたように思う今日このごろ。（大津市千丈川でのホテル観察・保護活動は24年目になりました。）

西川 美則（にしかわ よしのり）さん／流域政策局河川・港湾室長

滋賀県湖東地方山沿いの小集落に誕生し、爾来学生時代を除き居住中。滋賀県職員（土木技術職）に採用され、ほとんどを治水・利水行政に従事中。週末は、農林作業に従事しつつ村づくり事業に、夜は般若湯に取組中。暮らしと結びついた活動の発表を楽しみにしています。



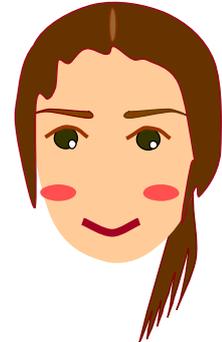
テーブル B

テーブル・コーディネーター

菊池 玲奈（きくち れいな）さん／結・社会デザイン事務所

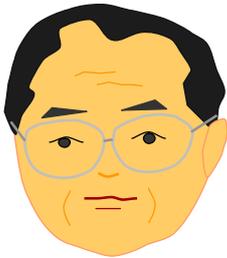
2002年10月から約2年、霞ヶ浦の環境保全などに取り組むNPO法人アサザ基金に勤務。2004年10月から約4年、東京大学大学院保全生態学研究室にて、市民・研究者協働による生物多様性保全に関する実践的研究に携わる。

現在、滋賀県に移り住み、環境保全に関するさまざまなプロジェクトのコーディネートや講演などを中心に活動中。



選考員

杉本 良作（すぎもと りょうさく）さん／砂防広報センター技術顧問



専門は防災（河川、砂防）で、県内の砂防ボランティアと防災エキスパートに参加しながら、砂防広報センター(NPO)でアドバイザーとして活躍中。信楽と大津と東京を往復しつつ、琵琶湖（大戸川も含む）を眺めながら、湖辺と川岸と山林を歩いている。数年前には防災で発表者としても参加している。そのときの経験から短時間での発表の難しさを身にしみて知っている。

佐藤 祐一（さとう ゆういち）さん／琵琶湖環境科学研究センター 研究員

専門は「なんでも屋」。水質や魚のシミュレーション、環境・社会調査、環境計画づくり、オペレーションズ・リサーチ、ワークショップのファシリテーターなど、とにかく広く関わることで見えてくる「何か」を探して日夜研究活動中。2008年からは琵琶湖流域管理シナリオ研究会の事務局として、市民参画により琵琶湖流域の将来像を描き、取りまとめた。



青田 朋恵（あおた ともえ）さん／農村振興課にぎわう農村推進室副参事



仕事では、「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」や「魚のゆりかご水田プロジェクト」などに携わり、生物多様性と農村の活性化などについて考えています。農山村が、いつまでも元気で明るくあって欲しいと願い、そのために何が出来るか、自分の無力さを感じつつも、日々悪戦苦闘しています！

プライベートでは、農山村に古くから伝わる郷土料理や食材に魅せられて、常に鼻をきかせ、いいにおいのする方向へは猪突猛進していきます。

テーブル C

テーブル・コーディネーター

さとうひさるさん／天若湖アートプロジェクト 2011 実行委員長

静岡県浜松市生まれ。京都芸術短期大学卒業後、2002年アートと市民をつなぐNPO「アート・プランまぜまぜ」を設立。現理事長。

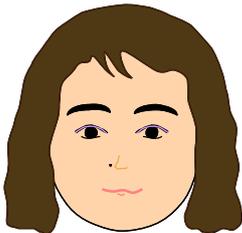
2005年からは桂川流域ネットワークとともに桂川の流域連携を目的にした「天若湖アートプロジェクト／あかりがつかなく記憶」を毎年開催。日吉ダムに沈んだ村のあかりをダム湖に灯す巨大アートは地域の風物詩として定着しつつある。

これからも、アートのかで地域を再発見する試みに挑戦していきたいと思っています。



選考員

小坂 育子（こさか いくこ）さん／子ども流域文化研究所 代表



三重県生まれ。水と文化研究会・子ども流域文化研究所・地元学ネットワーク近畿。「水と人とモノの関わり」にある身近な水環境を通して、それぞれの地域の暮らしにあるいろいろな仕組みを学びながら「ムラの元気応援団」をめざしている。

村上 悟（むらかみ さとる）さん／NPO 碧い琵琶湖 代表理事

旧余呉町生まれ。幼少のころから湖北地域をフィールドに魚や水鳥の研究や水辺環境の保全活動に携わる。2009年7月から現職に就き、地域の自然の営みと調和した「暮らし」を、力を合わせて形にしていく事業・運動に取り組む。最近ではヨシを壁面に使った東屋づくりをコーディネートした。



三和 伸彦（みわ のぶひこ）さん／琵琶湖政策課 副参事



1963年滋賀県長浜市生まれ。87年化学の技術職員として滋賀県に入庁後、環境政策課やエコライフ推進課など、一貫して環境行政を担当。

地元では湖北のタウン誌「長浜み～な」のボランティアスタッフとして、ふるさとの再発見をライフワークに、日々の暮らしの中で豊かさや幸せを感じられる心のあり方を模索中。

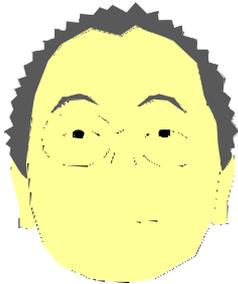
全体討論

大橋 正光（おおはし まさみつ）さん / 半鐘の会

1942年生まれ。平成20年、滋賀県が県民から10名の委員を公募して設置した流域治水検討委員会（住民会議）の座長として、提言「水害から命を守る滋賀県民宣言」のとりまとめに尽力した。滋賀県における流域治水対策・川の未来づくりに取り組んでいる。



山道 省三（やまみち しょうぞう）さん / NPO 法人全国水環境交流会 代表理事



1949年11月、長崎県長与町生まれ。子どもの頃、川や魚と慣れ親しむ。

NPO 法人多摩川センター、NPO 法人全国水環境交流会の立ち上げから関わり、現在は両団体の代表理事を兼任。社会参加、NPO の運営等、仕組みづくりに興味を持つ。川や水を中心にした交流活動等を行っている。

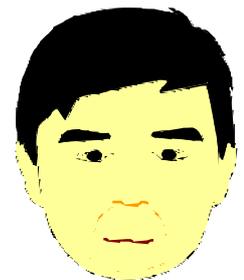
（全国）

「川の日」ワークショップ～いい川・いい川づくりワークショップ（1998年～）事務局長、多自然川づくり研究会。

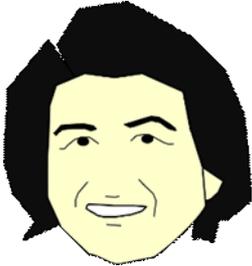
遊磨 正秀（ゆうま まさひで）さん / 龍谷大学工学部教授

1954年3月、山口県生まれ。京都大学理学部卒業、京都大学大学院理学研究科修士課程・博士後期課程修了。琵琶湖博物館準備室、京都大学生態学研究センター助教授を経て、龍谷大学工学部教授。

ホテルの舞う水辺について想いをめぐらし、魚の喜怒哀楽を水中で見つめ、川のあり方も生き物に問う。社会貢献の一環として国内外でスケートの審判に勤める。



朴 恵淑（ぱく けいしゅく）さん／三重大学副学長



1954年韓国ソウル生まれ。日韓の架け橋として、大気汚染や地球温暖化、水環境保全、環境教育に関わっています。3・11の東日本大震災により、環境の大切さに気づき、絆の素晴らしさに気づき、未来に希望をつなぐことに皆、必死で取り組んでいます。

「第5回淡海の川づくりフォーラム」が、青いゴールドと呼ばれる水資源や水環境の大切さに気づき、日本を動かす大きなムーブメントとなれるよう、頑張ります。

山崎 文男（やまさき ふみお）さん／芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク



「人と魚にやさしい川作り」を合言葉に、一級河川芥川の豊かな生態系を取り戻し、次世代に引きつぐため、芥川倶楽部の仲間とともに2005年から活動。

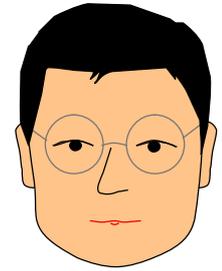
生き物の上下移動を助けるため、力を合わせて落差工に土のうを積み上げ実験魚道を設置。昨年春には河川管理者による恒久的な魚道設置につながり、そして初夏には中流まで天然アユが遡上しました！これら活動が評価され、第4回いい川・いい川づくりワークショップでグランプリを受賞。

私は発足当時から活動に参加しており、事務局機能を担っているNPO法人芥川倶楽部の事務局長として運営をサポートしています。

総合コーディネーター

福廣 勝介（ふくひろ しょうすけ）さん／NPO法人 近畿水の塾 理事長

京都大学農学部林学科卒業後、日本住宅公団（住宅都市整備公団を経て現・(独)都市再生機構）に入社、主に集合住宅の屋外の計画設計を担当。現在は（財）住宅管理協会関西支部で団地管理に従事。住民活動では、NPO法人「近畿水の塾」代表理事、「川の会・名張」代表、NPO法人「全国水環境交流会」理事。自然復元系や協働の仕事に関心がある。三重県伊賀（名張市）に生まれ、爾来、数年間を除き名張住まい。関心事は、山・川との付き合い、人との付き合い。地域、時間。信頼型社会の復活。



コメンテーター

嘉田 由紀子（かた ゆきこ）さん／滋賀県 知事



埼玉県生まれ。京都大学農学部卒業、ウィスコンシン大学大学院修士課程（農村社会学）修了、京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了。琵琶湖研究所研究員、琵琶湖博物館総括学芸員、京都精華大学人文学部教授を経て、滋賀県知事に就任。好きな食べ物はふな寿司、ニシンナス、ぜいたく煮。趣味はカラオケ、孫と過ごすこと。特技は手打ちうどん、地図が読める。座右の銘、「まっすぐに、しなやかに」。

片寄 俊秀（かたよせ としひで）さん／大阪人間科学大学 教授

水辺と下町の同時的再生こそが、人類の明日に、ほのかなく希望をもたらすと信じ行動する「川じじ」。淀川河川レンジャー選考委員長。環境芸術家。まちづくり道場主。技術士・工学博士・一級建築士。著書『ブワナトシの歌』『スケッチ全国町並み見学』『千里ニュータウンの研究』『まちづくり道場へようこそ』『いい川・いい川づくり最前線（共著）』『いいまちづくりが防災の基本』『日本の石橋・世界の石橋スケッチ集』など。



6) 実行委員会

実行委員長

北井 香（きたい かおり）／NPO法人木野環境



奈良県山辺郡山添村生まれ。興味があるのは田んぼ、農村の文化、そこで生きる人、日々重ねられた生活。子ども流域文化研究所での過去の水害聞き取り調査に従事し、現在は京都のNPO法人 木野環境に所属。「持続可能な社会をつくる」という理念に沿えば何でもテーマになる団体で、ここ数年は滋賀県の棚田保全活動に携わる。昨年、流域治水検討委員会（住民会議）を母体とした淡海の川づくりフォーラム実行委員会を立ち上げ、現在、実行委員長。

実行委員会



大橋正光さん



杉本良作さん



松尾則長さん



中井正子さん



柴田善秀さん



石津文雄さん



齒黒恵子さん



成宮純一さん



中村誠伺さん



多々納裕一さん

※ 実行委員会は、復活選考の選考に加わっています。

7) 参加団体の活動紹介

団体名：「奥村堤」の会【A-1】

活動概要：過去の水害を風化させることなく、地域防災力の向上を図る取り組みをしています。

川や水辺の名称：愛知川（東近江市五個荘奥町付近（愛知川中流部左岸側の集落））

発表内容：

「奥村堤」の会は、愛知川中流部左岸の「東近江市五個荘奥町」の自治会有志で構成する組織です。地域防災力を高める取り組みをしています。当集落内の愛知川堤防は、大正5年、昭和13年、昭和28年台風13号など洪水時に幾度も決壊しています。しかし、昭和28年以降、幸いにして目立った水害が生じていないため、水害に対する意識が希薄化し、地域防災力の低下を懸念していました。

そこで、過去の水害を風化させることなく地域防災力の向上を図ることが急務と考え、自分たちでできること「堤防の樹木伐採や除草、堤防点検、水防活動など」は自分たちで行い、そのうえで行政の力が必要なこと「護岸施工、堤防強化など」は公助を求めるとの基本的考えのもと、平成21年度に組織し活動しています。

除草・伐竹・清掃活動は年に4回程度行っています。平常時から川に関わることで、何か異変があったときに気づくことができます。また毎年9月には自治会の防災訓練を実施し土のうづくりや情報伝達の訓練も行っています。万一、避難が必要な時は「お寺のつりがね」を合図に行動するといった先人からの知恵も、子孫世代に引き継いでいます。

「奥村堤」の会の実益のある取り組みをアピールしたいと思います。



団体名：環境フォーラム湖東【A-2】

活動概要：環境意識の向上と会員のネットワークを構築し、各種活動（生き物調査、シンポジウム、広報誌発行）を展開して環境問題に対する理解を深めるとともに、湖東地域からより良い環境を創り出していく。

川や水辺の名称：針芹川、犬上川、宇曾川ほか

(彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町、東近江市（旧湖東町、旧愛東町地域）)

発表内容：

環境NPOなどの活動団体や企業などで構成された当フォーラムでは、湖東地域からよりよい環境を創り出していくため、市民団体、学校関係および行政と連携し、平成16年の設立以来8年間に亘って、調査研究事業、普及啓発事業、広報啓発事業を活動の3本柱に据え、取り組みを継続してきました。

◇湖東の生き物調査〔調査研究事業〕

子どもから大人まで幅広い層の住民が参加し、環境の指標となる身近な生物の調査を毎年行っています。これまで、つばめ、ひつつきむし、セミ、ホタル、タンポポなどの調査を行い、情報発信してきました。

◇環境シンポジウムの開催〔普及啓発事業〕

生き物調査の結果報告、優秀賞の表彰、活動団体の紹介などを年1回行っています。

◇エコトピアの発行〔広報啓発事業〕

湖東地域の環境情報を発信するため、情報交流誌エコトピアをこれまでに通算で18号発行してきました。



団体名：巨木と水源の郷をまもる会【A-3】

活動概要：巨木や豊かな森を育て、山里の発展とともに次世代に引き継いでいく。

川や水辺の名称：安曇川支流の北川および針畑川の源流

発表内容：

琵琶湖の水源となっている旧朽木村で伐採が進行していたトチノキの巨木について、平成22年度は巨木や豊かな森を保全する会が立ち上がり、伐採の進行がいったん止まった。

平成23年度は、巨木の保全について、伐採業者との係争や森林所有者との交渉の山場となった。その中で、現存する巨木の調査を実施し、行政・会・所有者15名との間に保全に関する協定を締結して巨木の観察歩道を整備するという成果を上げることができた。



団体名：日本森林再生化学機構株式会社【A-4】

活動概要：信楽の養鶏組合長の鶏舎で組合員立会いの実演。他多数。

川や水辺の名称：

発表内容：

養鶏農家の経営改善（近隣住民の悪臭の解消対策）～美味しい野菜や果実（ブランド化）～水質の浄化対策までを発表します。

孟宗竹をパウダー（100 ミクロン、30 ミクロン）にし、鶏糞と混ぜる事で瞬時に匂いが消えます。それを「ペレット化」すれば、田畑に機械で散布できます。竹の効果は知る人ぞ知る効果があります。糖度が2～3上がり、収穫量も2～3倍となり、成長も早く、収穫期が早まり、連作が可能となります。

野草花にも適しています。花芽が30%～50%も増え、にぎやかに花が咲きます。畔道や農道側、湖畔の環境改善に一躍を担うと思います。竹の成分は乳酸菌が多く含まれていて、染み出た水は水質改善になり、悪臭の除去にも貢献します。私の愛犬（柴犬）に夜毎の食事（缶詰）に小さじ1杯の竹粉を混ぜて与えています。体臭もなく、排便臭もなく、毛並みは艶々で医者にもかからず、元気です。お客様が来ても、犬の匂いがしない事で不思議に思っています。観葉植物も成長が早く、来る人来る人が口を揃えて「ホンマにすごいな～」って言っています。竹粉+鶏糞のペレット商品名は「無臭竹鳥完熟堆肥」(大地の恋人)と命名しました。



団体名：NPO 法人 比良の里人【A-5】

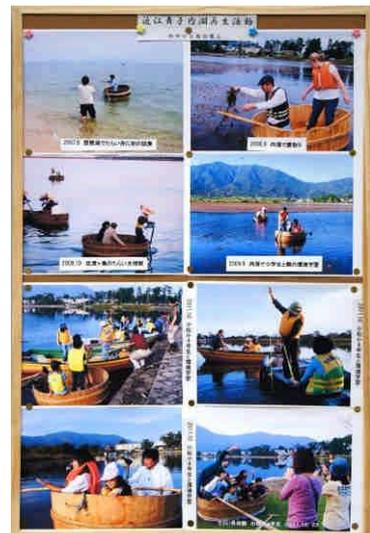
活動概要：たらい舟で自然観察、内湖再生

川や水辺の名称：近江舞子内湖（大津市南小松付近）

発表内容：

昔に比べて汚れてしまった近江舞子内湖を、もう一度美しい内湖に取り戻すための活動。

- ・たらい船を再生し、観光名所にする。
- ・たらい船で子どもたちと一緒に自然観察する。



団体名：^{すいがいりれきちようさだい}水害履歴調査隊【B-1】

活動概要：滋賀県内の水害履歴の調査、データベース化、情報発信

川や水辺の名称：滋賀県全域

発表内容：

滋賀県内で過去に水害の被害を受けた方のご自宅にお邪魔して、当時の被害状況や水害への備えなどのお話を伺う「水害履歴調査」という仕事をしています。また、お聞きした水害に備えるさまざまな知恵を後世に引き継ぐため、データベース化し、県庁ウェブサイトで情報を発信しています。

今日はそんな普段聞き慣れない「水害履歴調査員」の仕事について紹介します。



団体名：琵琶湖河川レンジャー有志【B-2】

活動概要：住民と住民ならびに住民と行政の連携・協働のコーディネーター（つなぎ役）として活動

川や水辺の名称：琵琶湖とその周辺河川

発表内容：

琵琶湖河川レンジャーは、現在 4 名が活動しています。琵琶湖およびその周辺で、川に関する地域の方々の思いや、事業を行う行政の声を引き出し、それらをつなぐ調整役をしています。各レンジャーの、それぞれの活動テーマです。

■佐々木レンジャー：

1. 思い出づくりから始める川と住民との関わり
2. 田上砂防堰堤群の魅力を住民へつなぐ

- 1の実践として「洗堰レトロカフェ」を開催しています。

■平山レンジャー：

1. 「川への想いを共有する」「課題にむけて連携する」ための場のコーディネート

- 意見交換会や協働イベントの開催により、住民と行政が出会い、話す、共に汗をかく場を調整し実現します。

■伊東レンジャー：1. 住民と行政をつなぐ水草対策（瀬田川）

- 琵琶湖の水草対策をどのように住民に知ってもらい、どうしたら住民と行政がともに取り組んでいけるかを考えます。

■安居レンジャー：2011年10月任命され、活動をスタートしました。

- 身近な自然としての「愛知川」の情報を広く集め、「使える」情報として発信していきたい。



団体名：勝部自治会【B-3】

活動概要：環境イベント・維持管理活動

川や水辺の名称：今宿川・中水川 かつべほたる北の道・かつべほたる南の道
(守山市勝部1丁目今宿川・三丁目中水川)

発表内容：

4年前、町内を流れる、今宿川と中水川という農業用水としての性格を持ち合わせている二つの川が改修され、遊歩道も整備されました。これを機に、毎年7月「海の日」前後に「水フェスタ」を計画、実行しています。

地域の人々が水辺の心地よさを体験したり、遊んだりすることができる貴重な水辺区間となり、しかも、生き物が次世代に渡って生命を引き続けていける様活動を続けていきたいと考えています。

専門家の先生のご指導で、川にいる生き物や植物について、今までの生態系を壊さないよう学習も進めています。遊歩道のネーミング、手作り看板の作成、魚の放流等多くの住民(大人も子どもも)を巻き込んで活動していることをアピールしたいと思います。



団体名：山内エコクラブ【B-4】

活動概要：おじいちゃんからおしえてもらった“昔の暮らしはエコだった”
～私たちができるエコ宣言～

川や水辺の名称：野洲川(甲賀市土山町山内地区付近)

発表内容：

野洲川の源流、三重県境に中山間地で子どもと大人が一緒になり、自然、文化、高齢者の知恵を大切にして、地域の人が元気になる活動をしています。その中で、今年のテーマは「水と暮らし」地域のもの知りおじいちゃんに聞き取りをしました。

井戸のこと、風呂のこと、電気の使い方、川遊びなどの話を聞き、水や限りある資源を大切にしてきた昔の暮らしにはびっくりし「もったいない」今の暮らしを見直すきっかけとなりました。そこで、私たちが考えたエコ宣言5か条を発表したいと思います。



団体名：西野郷土研究会【B-5】

活動概要：西野水道の顕彰と里づくり

川や水辺の名称：余呉川（長浜市高月町西野付近）

発表内容：

西野水道（近江青の洞門）を核とした取り組み

1. 西野水道まつり（祖先村人一丸の偉業に感謝と絆、結束の手づくりまつり）

1-1 水の大切さ … 用排水共に苦勞した集落、余呉川堤防（延長1km両岸）草刈、清掃

1-2 偉業を伝承 … 水道まつり古保利小学校5年生が掘り貫き当時を学習、「水道劇」を上演

1-3 外部との交流 … 子どもたちがお便り風船を揚げ交流（横浜、静岡、山梨、長野、愛知、岐阜等）

2. 水環境とのかかわり（河川の末端集落、次は琵琶湖の認識）

2-1 水辺の観察 … 集落内小川の生き物調べ、希少生物や環境保護を学ぶ

2-2 びわ湖への関心 … 学習船「うみの子」の名付けは古保利小児童会、マークは教職員の図案が採用

3. 近江うみの辺遊歩道を活かす取り組み

3-1 気持ちよく安全に … 尾根上3.5kmを快適にウォーキングして頂ける様草刈り、倒木伐採等

3-2 ガイド依頼対応 … 小学4年生賤ヶ岳までの縦走やツアーウォーキング等

4. 皇太子殿下行啓（平成22年10月14日）

・琵琶湖水運の調査とそこに住む人々の暮らしについて見聞された。



団体名：びわ湖自然環境ネットワーク【C-1】

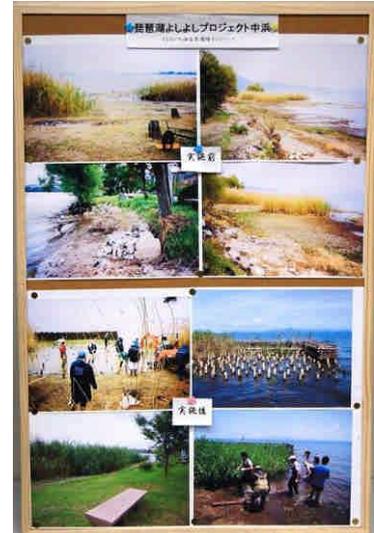
活動概要：ヨシ帯再生を自然の素材を使って実施。

川や水辺の名称：琵琶湖岸（大津市和邇中浜周辺）

発表内容：

びわ湖岸に自然素材を使い、なぎさの自然を壊さずにヨシ帯を再生する。

2003年から始めたこの事業も9年目を迎えた。国や県もその工法を採用したが、単年度事業のため十分な成果をあげていない中、我々の事業は一定の成果をあげてきた。



団体名：琵琶湖総合保全ワーキンググループ有志【C-2】

活動概要：「琵琶湖の総合的な保全のための計画調査」に基づく取り組みの推進

川や水辺の名称：琵琶湖全域

発表内容：

琵琶湖総合保全ワーキンググループは、国の機関（環境省・厚生労働省・国土交通省・農林水産省・林野庁・水産庁）と滋賀県が、琵琶湖の総合的な保全のため、水質の保全、水源かん養、自然的環境・景観の保全等の幅広い観点から目標を掲げ、施策検討及び、施策効果のモニタリングに取り組んでいます。

今年度は、琵琶湖の水環境を多様な観点から評価するため、日ごろから琵琶湖で活動している市民の方々や利用者の意見を取り入れた「琵琶湖水環境モニタリング（仮称）」の検討などを行っています。

本日は、私たちの取り組みを多くの方々に知っていただくとともに、このモニタリングの青写真をご提示して、ご意見を頂く機会にしたいと思います。



団体名：白鳥川の景観を良くする会【C-3】

活動概要：白鳥川流域の環境整備活動と市民の憩いの場づくり

川や水辺の名称：①白鳥川（JR線～びわ湖河口付近）、②藤間川（医療センター～白鳥川合流点）
（近江八幡市 白鳥・堀上・土田・小舟木町 付近）

発表内容：

◆白鳥川流域の環境整備で「景観向上」と「市民の憩いの場づくり」活動



(1) 景観隊発足の経過 …

- ①ごみ多く危険な場所の白鳥川流域
- ②2006年2月15日(水)に会を発足。

(2) 活動目的と活動エリア …

- ①流域の景観向上と市民の憩いの場づくり
- ②白鳥川流域の、約5km区間

(3) 6年間実績 … 計137回活動

- ①参加者延4128人、②ごみ回収約11.6ト、③除草距離約69千m、④桜植樹360本
- 1回当たり平均 ⇒ ①参加者 約30.1人、②ごみ回収約85kg、③除草約509m、④植樹約2.6本

(4) 重点取組 … 白鳥川流域が「市民の憩いの場」になるよう目指す(①～③)

- ①地元小学校・生徒が「川に入って生き物調査」する体験学習の継続支援、
- ②手作り「桜ボンポリ」と「鯉のぼりの川渡し」等、話題づくりで元気街づくりに貢献。
- ③徹底した桜樹木管理で将来の名勝「5km桜並木づくり」の具現化推進。

(5) 今後の課題…①若手参加者の増強、②活動経費の安定確保、③機械化の導入(作業の軽度化)

団体名：滋賀県流域政策局有志【C-4】

活動概要：地先の安全度マップ

川や水辺の名称：滋賀県全域

発表内容：

- ・河川技術者が川の外へ出る
氾濫に対する減災は、河川技術者しか考えられない。
川の改修の限界も、河川技術者しか語れない。伝えられない。
- ・解析技術が進んだ今、出来ないことはない。
どうして今まで出来なかったか。今するか、しないか。
- ・作製過程では何が一番大変か。
解析だけでは、限界有り。現地を見る。
- ・どう活かすか。
条例化までやる。



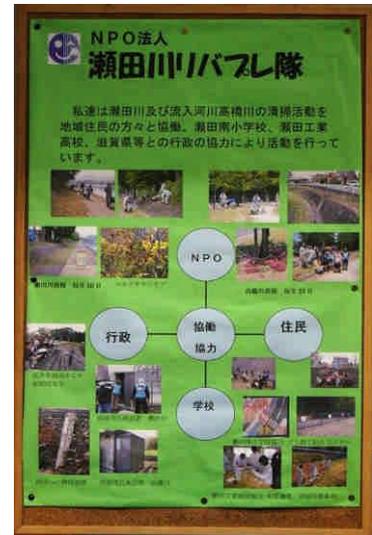
団体名：NPO法人 瀬田川リバプシ隊【C-5】

活動概要：県が推進するエコフォスター制度での河川清掃

川や水辺の名称：高橋川および瀬田川、建部大社周辺の河川および瀬田川（大津市）

発表内容：

高橋川は瀬田ゴルフ場を源流とする全長 4 km程の一級河川です。この河川の一部を天井川改修工事箇所を毎月 25 日河川清掃を行って5年経過。この年大きな変化はないが、一年の報告と瀬田川京滋バイパス高架下から篠部川迄の散策路を中心に、毎月 10日を活動日とした清掃活動も含めて報告させていただきます。この活動はどこでもできる小さな活動です。この様な輪が広がることを期待して発表させていただきます。



団体名：NPO法人^{かもものこうげんくらぶ}蒲生野考現倶楽部【C-6】

活動概要：環境調査（モニタリングサイト 1000 里地調査）、体験活動を通して青少年の健全育成を図る。

川や水辺の名称：佐久良川（日野川支流）（日野町川原集落付近 ～ 東近江市蒲生支所横）
その他 日野川本流、琵琶湖・淀川流域の河川など

発表内容：

「たんけん、はっけん、ほっとけん」を合言葉に、佐久良川を拠点として「米作り体験」、「ホテル観賞会」、「かいどり大作戦」、「日野川探検」、「モニタリングサイト 1000 里地調査」などの自然体験や観察、調査を行いました。また、モニ 1000 調査の様子を地元の方々に報告し、地元の方々との交流も行いました。

さらに、「ほっとけん」活動として、佐久良川、琵琶湖、桂川、木津川、淀川、猪名川、大和川、鴨川などで、清掃活動や外来生物の駆除作業を行いました。

地域の自然や文化に触れる体験活動や調査活動、清掃活動などに参加した子どもたちの成長ぶりをみてください。



淡海の川づくりフォーラムに関するお問い合わせ

淡海の川づくりフォーラム実行委員会事務局

(滋賀県土木交通部流域治水政策室内) 担当：辻・西山

電話：077-528-4291 FAX：077-528-4913

電子メール：forum@shiga-rivers.com